

資産運用会社の実務を身につける

2026年 夏季日程

日経ビジネススクール

ファンドマネジメント講座

<ニューリリース> <注目講座>

投資の本質と資産運用の原理

「投資とは何か」という根源的問いに立ち返り、資産の存在意義や市場構造、投資家の価値観・倫理までを多面的に考察します。

<開催季限定講座>

オルタナティブ投資関連業務

<不動産ファンド/J-REIT編>

不動産投資の基礎からJ-REITの実践手法まで、初心者にもわかりやすく、実務に直結する知識を解説します。

<リニューアル>

生成AI時代のAI運用

資産運用におけるAI・生成AIの活用方法と、現場で直面する課題について探究します。

Zoomでのオンライン受講



日経ビジネススクール
NIKKEI BUSINESS SCHOOL

ファンドマネジメント総合基礎 5/13(水) P 3

初学者向けに、アセットマネジメント会社の組織構造から、年金資金や投資信託のスキームまで、業界の全体像を包括的に解説します。運用会社、販売会社、投資家の関係性を説明し、資産運用のビジネスモデルの概観を解説いたします。

10:00～12:00	資産運用業界の概観と資産運用業務 ― フロント業務を中心として	120分	出水
12:00～13:00	コンプライアンス業務の基礎と概観	60分	
13:50～15:20	バックオフィス業務の基礎と概観	90分	
15:30～17:00	ミドルオフィス業務の基礎と概観	90分	

受講料(税込) 48,400円

ミドルオフィス業務 5/15(金) P 4

資産運用ビジネスにおいて必須となる定量評価の知識を基礎から応用まで学ぶ講義です。リスクやリターン、パフォーマンスの測定、パフォーマンスの要因分析を中心に、具体的な計算方法をエクセルファイルで提供し、受講後の復習を支援します。ビギナー向けにはポートフォリオのリスク・リターン計算や運用パフォーマンスの分析方法を解説し、専門的なリスク指標の利用や実務上の留意点も含めて学びます。本講義は、資産運用に必要な知識を体系的に身につけることができる内容となっています。

10:00～11:30	運用評価に必要な基礎知識：リスクリターンから要因分析まで	90分	右田
11:30～13:00	パフォーマンス測定の実務Ⅰ：残高・取引明細表/キャッシュフローによる収益の調整/GIPS準拠、他	90分	
14:00～15:30	パフォーマンス測定の実務Ⅱ：日次厳密法と修正ディーツ法、複合効果/要因分析の誤差項/ブレアデス累積方式、他	90分	
15:30～17:00	パフォーマンス測定の実務Ⅲ：個別銘柄別寄与度/多段階要因分析/オルタナティブ運用の要因分析、他	90分	

受講料(税込) 48,400円

資産運用システム構築戦略 5/19(火) P 5

資産運用システムの構築戦略に焦点を当てた包括的なプログラムです。4つのセッションを通じて、資産運用業界のシステム基盤の全体像を学ぶことができます。

10:00～11:30	資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム：運用実績の記録と管理/基本データ構成/インターネットからクラウドへ/外部データ交換、他	90分	横山
11:30～13:00	フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応：伝統的資産のフロントオフィス・システム/IBOR/ABOR/資産視点の変化がもたらすシステム構造の変化、他	90分	
14:00～15:30	ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理：運用成果の分析と表明・報告/EUCとデータ・ウェアハウス/モダン・データ・ハブへの発展	90分	
15:30～17:00	IT業務と資産運用システムの実装計画：IT業務の概要/データ・マネジメント業務/システムライフサイクルとシステムの実装計画	90分	

受講料(税込) 48,400円

トレーディング業務 5/20(水) P 6

売買執行業務に関する幅広い知識を習得します。具体的には、金融商品の発注実務からシステム、コンプライアンスまでを網羅的に学びます。特に、トレンドが急速に変化する分野であるため、最新の話題も取り入れています。各セッションでは、バイサイドおよびセルサイドのトレーディング業務の基本や環境変化、電子取引の活用事例、さらに外国株式や債券取引の実務についても詳しく解説します。また、執行コンプライアンスや社内牽制機能についても学び、実務に即した知識を身につけることができます。

10:00～11:30	バイサイドトレーディングの概要：基本イメージ/業務の流れとミッション/執行環境の高度化と内外金融法制・規制見直し、他	90分	西野
11:30～13:00	エグゼクティブトレーディング実務：取引・執行方法の種類/電子取引の活用事例/代替執行市場/外国株式取引の実務、他	90分	
14:00～15:00	債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務：取引概略/国内債券取引/外国債券取引/外国為替取引/短期資金取引	60分	
15:00～17:00	執行コンプライアンスとトレーディング関連事項：グローバル潮流の変化/執行コンプライアンス関連/プロカー選定・評価/システム・インフラ、他	120分	

受講料(税込) 48,400円

ポートフォリオマネジメント業務 ― 差別化に注目して ― 5/21(木) P 7

専門知識は実務経験がないと実感しにくいものです。そこで、本講義では、講師がファンドマネジャーとしての体験談や興味深いエピソードを交えながら、複雑な理論も楽しく理解できるよう解説します。また、一つの事象を複数の角度から説明することで、理解を深めます。これにより、「本当に理解できているのか」という疑問に対して、実際に理解できているのか、それとも理解したつもりになっているだけなのか明確になります。

10:00～11:30	資産運用会社の現状と運用の基礎知識：業界の現状と今後の見通し/商品の基礎知識/取扱商品の概要 ― メリット、デメリット、批判	90分	柏原
11:30～13:00	どのようなプロダクトが必要なのか：家計の資産運用の現状と定着しない理由/運用会社の課題と変化/有望なプロダクト/差別化の源泉	90分	
14:00～15:30	株式アクティブ運用を例として：運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化/意思決定プロセスの確立/運用スタイル/成長性・バリュエーション分析、他	90分	
15:30～17:00	為替とデリバティブの利用：プロダクト理解のための理論(為替編)/プロダクト理解のための理論(デリバティブ編)	90分	

受講料(税込) 48,400円

オルタナティブ投資関連業務 <不動産ファンド/J-REIT編> 5/22(金) P 8

不動産投資の基礎から実践的なJ-REIT投資手法まで幅広くカバーしています。不動産の特性や市場動向の分析方法、リスク管理手法を学び、J-REITの市場概況や成長メカニズム、バリュエーションの考え方で深く掘り下げます。不動産と金融の両面から、初心者にもわかりやすく解説し、実務に直結する知識を提供します。

10:00～11:00	不動産投資とは：不動産の特性～株・債券投資との違い/商品の種類/不動産価格の考え方/商品特性と選び方、他	60分	大谷
11:00～13:00	不動産市場の読み方とリスク管理手法：不動産賃貸市場の読み方/不動産投資市場の読み方/リスク管理手法、他	120分	
14:00～15:00	J-REIT投資実務Ⅰ：市場概況(保有資産、セクター配分、投資家動向)/リスクリターン特性/成長メカニズム、他	60分	
15:00～17:00	J-REIT投資実務Ⅱ：運用状況と市場パフォーマンス/銘柄評価とモニタリング/バリュエーションの考え方、他	120分	

受講料(税込) 48,400円

バックオフィス業務 <投資顧問・投資一任編> 5/25(月) P 9

投資顧問・投資一任に関するバックオフィス業務について学びます。約定から受渡、残高作成、権利配当付与、時価評価、レポート作成に至るまでの流れを豊富なサンプルを用いて詳しく解説します。特に、運用会社のバックオフィスの役割とその実務内容に焦点を当て、信託銀行や保険会社でも通じる基本的な知識を提供します。受講者はファンド管理の具体的なプロセスや信託銀行との連携を理解し、実務に活かせる知識を得ることができます。

10:00～12:00	バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務：ファンド属性設定と銘柄属性設定/ファンド管理の日次・月次業務の流れ、法定帳簿等の電子化、他	120分	和村
12:00～13:00	約定処理と株式議決権行使の実務：約定処理(国内資産)/約定処理(海外資産)/為替替付/株式の議決権行使	60分	
14:00～15:30	ブックイングと信託報告書との照合手順：ファンドの報告概要/ファンドの照合実務/決算処理/データ・ブックイングの方法	90分	
15:30～17:00	ディスクロージャー資料と運用報告の実務：運用報告書の種類/運用報告の目的/法定書面/運用報告の実務/投資顧問料業務	90分	

受講料(税込) 48,400円

企業価値評価・投資戦略のためのリサーチ・アナリスト業務 <無形資産評価基礎編> 注目講座 6/2(火) P10

無形資産(知的財産や特許情報)の評価に関する基礎から応用までを学びます。特に、特許情報の入手方法や読み解き方、無形資産の評価手法について具体的な事例を通じて理解を深めます。また、特許の価値と企業業績との関連性、国際的な制度の違い、そして特許調査の重要性を学ぶことで、受講者は投資判断に役立つ知識を身につけることができます。

10:00～12:00	無形資産/知財に関する基礎知識：無形資産とは/諸外国の制度/特許庁サイトの使い方と内容の読み解き方、他	120分	三浦
12:00～13:00	特許情報と投資判断：特許と業績・株価との関係/ネガティブイベントチェックで必須な情報/有効性の判断/留意点	60分	
14:00～14:30	最近の無形資産に関する話題：DX/対話型AI(ChatGPT)	30分	
14:30～16:00	特許の定性的価値評価および金銭的(定量的)価値評価の手法：評価項目/スコア評価/非上場企業評価/業界トレンド予測への応用、他	90分	

受講料(税込) 48,400円

■アセットマネジメント会社(投信・投資顧問会社)を中心とした資産運用ビジネスの実務全般について学ぶ講座です。

■年4回(四半期ごと)の定期開講なので、ご自身

身の長期スケジュールに沿って受講できます。

■網羅的に理解したい方、専門実務をピンポイントでスキルアップしたい方、双方のニーズに応えます。

講師プロフィール

ファンドマネジメント総合基礎	企業価値評価・投資戦略のためのリサーチ・アナリスト業務 <無形資産評価基礎編>
出水 里香 野村アセットマネジメント 資産運用研究所 所長	三浦 聡司 元クレディスイス証券 株式会社 副社長 野村アセットマネジメント/日本取引所グループ 代表取締役CEO
ファンドマネジメント総合基礎	リーガル&コンプライアンス <基本スキル編>
和村 雅義 エクスネット シニアコンサルタント	小野 高央 弁護士/アセットマネジメントOne リスク管理本部 副本部長
ファンドマネジメント総合基礎	リスク管理業務
工藤 協一 パートナー・インベストメント・リソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長	工藤 協一 パートナー・インベストメント・リソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長
ミドルオフィス業務	バックオフィス業務 <投信編>
右田 徹 イールドリソ・アシエント・ファン/シニアマネージャー	東中川 教明 イールドリソ・アシエント・ファン/シニアマネージャー
資産運用システム構築戦略	債券ポートフォリオマネジメント業務 ― 債券運用の理論と実務
横山 陽一 野村総合研究所 資産運用ソリューション 専任本部 シニアチーフ エキパート	横谷 宏史 ピクテシヤン 執行役員 商品本部長
資産運用システム構築戦略	債券ポートフォリオマネジメント業務 ― 債券運用の理論と実務
内田 昌孝 野村総合研究所 資産運用ソリューション 専任本部 シニア・マイスター	山下 文音 スタート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ 債券ポートフォリオ・マネージャー
トレーディング業務	投資の本質と資産運用の原理 ― 投資の思想と構造から再考するアセットマネジメント
西野 俊介 セン/投信 上級顧問 運用管理専任担当	森本 紀行 HCアセット・マネジメント株式会社 代表取締役社長
ポートフォリオマネジメント業務 ― 差別化に注目して ―	投資顧問考察 ― 活用戦略と将来ビジョン ―
柏原 延行 丸三証券 常務執行役員 投資信託部長 チーフ・グローバル・ストラテジスト	和村 雅義 エクスネット シニアコンサルタント
オルタナティブ投資関連業務 <不動産ファンド/J-REIT編>	<中級上級編>投資信託約款の読み込み方 ― 「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ ―
大谷 咲太 三井住友トラスト 基礎研究所 投資信託部長 上席主任研究員	宮園 喜明 三井住友信託銀行 受託資産推進部 投資受託課 主任調査員
オルタナティブ投資関連業務 <不動産ファンド/J-REIT編>	生成AI時代のAI運用 ― 資産運用におけるAI活用と実務展開
堀 明希子 三井住友トラスト 基礎研究所 REIT投資顧問部 上席主任研究員	長尾 慎太郎 楽天投資投資顧問 第三運用部
バックオフィス業務 <投資顧問・投資一任編>	生成AI時代のAI運用 ― 資産運用におけるAI活用と実務展開
和村 雅義 エクスネット シニアコンサルタント	中田 喜之 ニッセイアセットマネジメント 株式会社 ファイナンス・テクノロジー運用部 チーフ・ファイナンシャル・エンジニア

リーガル&コンプライアンス <基本スキル編> 半日講座 6/5(金) P11

資産運用業務におけるリーガル&コンプライアンスの基本スキルを習得するプログラムです。経験豊富な講師が、多様なバックグラウンドを持つ受講者を対象に、法律の基本原則から最新の論点まで丁寧に解説いたします。2つのセッションで構成される4時間の集中講座となり、投資運用業に関する法規制の基本から最新の論点まで、幅広いトピックをカバーします。

13:00～15:20	リーガルの基本スキル：法規制の構成と特徴/違反した場合の影響/資産運用業に適用される法令/代表的な義務/資産運用業者の法務部の実務	140分	小野
15:20～17:00	コンプライアンスの基本スキル：受託者責任の基本/コンプライアンスの基礎・態勢/近年、企業に求められるコンプライアンス/最新の論点/リーガル・コンプラに関わる最新のトピックス	100分	

受講料(税込) 33,000円

リスク管理業務 6/9(火) P12

運用会社において、自己資本のリスク管理が求められるようになりました。この環境下で、資産運用会社に必要なプリンシプルベースのリスク管理姿勢について、その概要と具体的手法を基本から詳しく解説します。講義では、リスク管理をめぐる外部動向や内部統制との関係、運用リスクの種類と計測方法(VaR)、具体的な運用リスク管理手法に加え、外部委託先の管理方法やオペレーショナルリスクの定量化方法も取り扱います。

10:00～11:30	リスク管理と内部統制：概説/失敗事例から学ぶ/心理バイアスの合理的判断への影響/リスク管理のポイント、他	90分	工藤
11:30～13:00	運用リスク管理：運用リスクの種類と管理方法/VaR計算における各種設定/外部委託先管理の具体的な方法、他	90分	
14:00～15:30	オペレーショナル・リスク管理：オペレーショナル・リスクの種類/管理の手法/CSA/定量化と課題、他	90分	
15:30～17:00	統合リスク管理：顧客資産と自己資金の違い/統合リスク管理の実務/目指すべき自己資金のリスク管理態勢、他	90分	

受講料(税込) 48,400円

バックオフィス業務 <投信編> 6/12(金) P13

投資信託業務に関する講義では、投信の仕組みやオペレーション全体を体系的に学びます。初中級者に適した内容で、約定・受渡、追加・解約、基準価額の計算、決算業務に関する実践的な内容を解説します。特に、日本の投信計理のユニークな仕訳を計算事例と共に紹介し、基準価額や配金の算出メカニズムを理解できるようサポートします。

10:00～12:00	投資信託のしくみと委託者の役割：ファンドの形態と関係法人/日々の業務の流れ、他	120分	東中川
13:00～15:00	計理仕訳：(基準価額の計算、株式約定、債券約定、外国投資勘定、追加・解約約定)＋ミニ演習	120分	
15:00～16:30	決算関連業務(分配原資の計算)、外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点	90分	
16:30～17:00	投信業界の今後の課題：金融庁指導と市場動向、基準価額の一元化、資産運用立国の実現に向けて、他	30分	

受講料(税込) 48,400円

債券ポートフォリオマネジメント業務 ― 債券運用の理論と実務 ― 6/15(月) P14

債券アクティブ運用に焦点を当て、実務的な観点から包括的な内容を提供します。イールドカーブやスプレッドの分析、債券価格の変動要因、金融政策と経済指標の解釈など、市場分析の基礎を学びます。さらに、超過収益獲得のためのさまざまな戦略(国別配分、セクター配分、個別銘柄、通貨方針)を詳しく解説し、実際の債券取引の流れも紹介します。最新のトレンドとして、脱ベンチマーク化や第二次総合化、モジュール化にも触れ、低金利環境下での債券運用の課題や利回り向上策、為替ヘッジの議論まで幅広くカバーします。

10:00～11:30	実務に必要な基礎知識：債券と債券価格/イールドカーブ/スプレッド/債券のリスク	90分	横谷山下
11:30～13:00	経済指標及びマーケットの見方：価格変動要因/経済指標サイクル/債券運用に必要な市場データ/市場リスク環境、他	90分	
14:00～15:10	債券運用戦略の実行：債券投資の収益源泉/超過収益獲得戦略/イールドカーブ戦略/債券取引の実際、他	70分	
15:10～17:00	バリュアタイムシフトの起きる債券運用のトレンド：金利の歴史/グローバル債券運用のトレンド/為替ヘッジを巡る議論/ESG債券投資、他	110分	

受講料(税込) 48,400円

投資の本質と資産運用の原理 ― 投資の思想と構造から再考するアセットマネジメント 新規講座 特別企画 6/18(木) P15

資産の本源的意義、市場構造や非効率性、投資家の価値観・倫理を整理し、理論的理解にとどまらず、投資判断が形成される前提や意思決定の枠組みを明らかにします。アセットクラスの意味、資産配分、プライベート投資、ポートフォリオ管理、金融機関の責任までを多面的に考察します。

10:00～11:00	投資の原理とアセットの根源的意義：投資の原理/アセットクラスが存在意義/具体例	60分	森本
11:00～12:00	資産選択と配分の理論 ― 投資家の価値観と構造設計：資産選択の哲学/配分の構造設計/投資家の文化的背景とポートフォリオの関係	60分	
12:00～13:00	市場の効率性とアクティブ運用の復興：効率的市場仮説の限界と歪みの存在/アクティブ運用の認識/投資とは、主観的価値の認識と市場の歪みの洞察	60分	
14:00～15:00	プライベート投資の魅力と非効率性の活用：非公開市場の構造と投資機会/情報の非対称性と投資家の知性/社会的課題解決とプライベート投資の接点	60分	
15:00～16:00	ポートフォリオ管理の理論と実践：投資の本質的価値とポートフォリオ管理の原理/リスク管理と構造的設計/実例分析	60分	
16:00～17:00	金融機関の役割とフィデュシヤリ・デューティ：フィデュシヤリ・デューティの本質と制度的背景/金融機関の役割と職員の職務上の義務と当該顧客/顧客本位の業務運営と資産運用の実践	60分	

受講料(税込) 48,400円

投資顧問考察 ― 活用戦略と将来ビジョン ― 夏季限定企画 特別企画 6/19(金) P16

投資顧問の多様な役割とそのビジネスモデルについて深く探求します。伝統的な投資助言や投資一任から、投資信託やプライベート・エクイティに至るまで、各セッションを通じて「投資顧問がどのようにビジネスに活用されているか」を実感できる内容です。受講者は、投資顧問スキームの広がりとそのポテンシャルを理解し、新たなビジネス展開のヒントを得ることができます。

10:00～11:30	投資助言・投資一任の伝統的ビジネス：投資助言のビジネスの世界/投資一任のビジネスの世界	90分	和村
11:30～13:00	投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用：国内投資信託の外部委託/国内投資法/外国投資信託	90分	
14:00～15:30	投資事業組合・LPS・プライベートエクイティでの投資顧問の展開：国内投資事業組合/LPS/プライベートエクイティ	90分	
15:30～17:00	ラップ・SMAでの投資顧問の展開：ラップ/SMA/ラップとSMAの違い/富裕層へのプライベートバンキング	90分	

受講料(税込) 48,400円

<中級上級編> 投資信託約款の読み込み方 ― 「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ ― 講義時間拡大 6/24(水) P17

投資信託約款の基本知識を体系的に学び、実際の約款を教材として使用します。受講者は、信託事務の委託、受益権に係る各種規定、収益の分配方式など、投資信託に関する重要な条文を理解し、業務上よくある質問への対応力を身につけます。投信約款は法令や投信協会諸規程に基づく重要な文書であり、これを学ぶことで投資信託全体を深く理解することができます。

09:45～11:30	約款を読み込むための基本知識：投信約款とは何か/株式投信と公社債投信/証券投資信託/有価証券、他	105分	宮園
11:30～13:10	本文からポイントを読むⅠ：事務委託/信託金/期間/勧誘/NAVの計算/受益権分割/受益権の帰属と譲渡、他	100分	
14:10～15:50	本文からポイントを読むⅡ：運用指図の範囲/投資制限/混雑委託/信託財産登記/資金借入と立替/計算期間、他	100分	
15:50～17:30	本文からポイントを読むⅢ：信託報酬総額/収益分配/質権口記載/解約/約款変更/反対受益者/通報/公告、他	100分	

受講料(税込) 48,400円

生成AI時代のAI運用 ― 資産運用におけるAI活用と実務展開 リニューアル 6/29(月) P18

本講義では、資産運用分野におけるAI活用を体系的に解説します。データサイエンスや機械学習によるクオンツ運用の発展を踏まえ、近年注目される生成AIが調査・分析業務や意思決定支援に与える影響を整理します。AIの特性と限界を理解しながら、生成AIの仕組みや実務導入の考え方、組織・体制面の課題について解説します。

10:00～11:20	資産運用におけるAI：資産運用とサイエンス/AI(人工知能)とは何か/資産運用において機械(AI)は人間と何が違うのか	80分	長尾
11:20～13:00	データサイエンスのデザイン戦略：運用システムのデザイン/仮説演繹と帰納法による戦略構築/科学パラダイムと社会/Closing remarks	100分	
14:00～15:40	資産運用におけるAI活用と基礎技術：資産運用業務におけるAI活用の概要/AI技術の基礎知識/生成AIの基礎と技術的背景	100分	
15:40～17:00	資産運用業務におけるAIの実務応用：実務応用の進め方/実務応用の進め方/生成AIの実務応用/AI活用の将来	80分	

受講料(税込) 48,400円

ファンドマネジメント総合基礎

5/13 水

講師	Session 1 & 2: 出水 里香 野村アセットマネジメント 資産運用研究所 所長
	Session 3: 和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント
	Session 4: 工藤 協一 パーテックス・インベストメント・ソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長

アセットマネジメント会社の主要部門の基本業務と必要な基礎知識を1日で学ぶ講座です。各ビジネスラインの役割や連携、オペレーションプロセスの全体像を理解できます。実務経験の浅い方向けですが、経験者の復習や投資運用関連業界の方の導入としても最適です。全体像の把握や各論受講前の基礎固めに役立ちます。

Session 1 資産運用業界の概観と資産運用業務 — フロント業務を中心として 10:00 ~ 12:00 (120分)

1. 資産運用とは — 自分で投資するか、プロに任せるか	⇒ 投資信託ビジネスにおける営業	⇒ バックオフィス業務に求められるもの
2. 資産運用業界の概観	⇒ 資産運用のPlan-Do-See	⇒ コンプライアンス業務
・投資顧問ビジネスとは	⇒ リサーチ	⇒ コンプライアンス(ブレイキ)
— オーダーメイド型資産運用	⇒ ポートフォリオマネジメント	⇒ 法務(アクセル)
・投資信託ビジネスとは	⇒ トレーディング	⇒ 内部監査
— レディメイド型資産運用	・ミドル業務	4. 資産運用会社にとってのシステム
・資産運用にかかわる法令諸規則	⇒ リスク分析	・フロント用/ミドルオフィス用/ バックオフィス用/コンプライアンス用
3. プロフェッショナルとしての資産運用とは	⇒ パフォーマンス分析/リスク・リターン の総合評価	・STP (Straight Through Processing)
・フロント業務(営業)	⇒ 投資顧問ビジネスにおける営業	5. 資産運用会社の社会的位置づけ
⇒ 投資顧問ビジネスにおける営業	・バックオフィス業務	

Session 2 コンプライアンス業務の基礎と概観 12:00 ~ 13:00 (60分)

1. 総論：資産運用会社のコンプライアンスとは — 法令遵守?	・コンプライアンス態勢	⇒ 当局によるモニタリング
2. フィデュシャリー・デューティ (受託者責任)	— 体制と態勢の違い	— 金融商品取引業者等のあるべき姿
3. 各論：コンプライアンス業務の実際	・コンプライアンス部の各業務へのかかわり	
・コンプライアンス体制	⇒ フロント業務(営業)とのかかわり	
— コンプライアンス部だけがコンプライアンス業務を行っているわけではない	⇒ フロント業務(運用)とのかかわり	
	⇒ ミドル業務とのかかわり	
	⇒ バックオフィス業務とのかかわり	
	⇒ 全般的な業務	

Session 3 バックオフィス業務の基礎と概観 13:50 ~ 15:20 (90分)

1. バックオフィス業務の全体像	⇒ 社外向け報告、営業用資料の元データ
・バックオフィスの業務項目	⇒ 社内管理の基礎データ
・投資信託の業務サイクルと業務項目	3. 運用報告書
・投資顧問の業務サイクルと業務項目	・投資信託報告書の種類
・役割分担とリーガル・ストラクチャー	・投資顧問報告書の種類
・外国籍/国内籍投信比較	
・投資信託と投資顧問のビジネスの範囲比較	
2. データプロセッシング	
・約定フローと約定データ項目	
・データの作成プロセスとサイクル	
・データ蓄積の目的	
⇒ 運用	
⇒ モニタリング	
⇒ 受託銀行の計理データと照合	

Session 4 ミドルオフィス業務の基礎と概観 15:30 ~ 17:00 (90分)

1. 運用哲学と運用プロセス	・パフォーマンスの計測ルール	7. リスク管理
2. 資産運用会社におけるミドルオフィス業務	・ユニバース(ピアグループ)比較	・資産運用会社における各リスクの定義
・ミドルオフィス業務の位置づけと主要業務	・スタイル分析/執行コスト分析	・市場リスク管理の方法
3. パフォーマンス評価の目的	・ヘッジファンド等で使用されるリスク測度	・リスク量管理
・運用委託者・運用受託者、それぞれの立場での違い	5. パフォーマンスの要因分析	8. リスク考慮後のパフォーマンス分析
・パフォーマンス評価に求められる要件	・プリンソン要因分析理論	・代表的なリスク考慮後のリターン尺度
4. 定量評価	— 要因分解が成立する理由	9. ミドルオフィス業務の課題
・定量評価の方法	6. パフォーマンスの定性評価	
・相対リターン(対ベンチマーク)	・運用委託者の視点と資産運用会社5つの“P”の視点	

ミドルオフィス業務

5/15 金

講師	全セッション: 右田 徹 元 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン データ管理部長
----	---

資産運用会社はパフォーマンスがすべてといっても過言ではありません。本講義は運用評価業務、主に定量評価について学びます。リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握したうえで、プロが実際に行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。

Session 1 運用評価に必要な基礎知識 10:00 ~ 11:30 (90分)

1. リターン	2. 要因分析	3. リスク
・収益率(リターン)の計算	・対ベンチマーク比較	・リターンとリスクのトレード・オフ
— 収益と収益率の違い	— 絶対収益率と相対収益率の違い	— 高リスク銘柄と低リスク銘柄の違い
・収益の実現部分と未実現部分	・ポートフォリオの業種別構成	・分散投資によるリスク低減
— 実現損益とトータル・リターンの違い	— ポートフォリオの評価と業種別評価の違い	— 集中投資と分散投資の違い
・収益率の幾何リンク	・超過収益率の要因分解	・リスクの計算
— 単利と複利の違い	— 業種配分効果と銘柄選択効果の違い	— 絶対リスクとトラッキング・エラーの違い
・投資金額の変化と収益率	・個別銘柄寄与度	・リターンとリスクの総合評価
— 時間加重収益率と金額加重収益率の違い	— 銘柄寄与度と業種内銘柄寄与度の違い	— 超過収益率による評価とIRによる評価の違い
・コンポジット収益率	・運用プロセスによる測定方法の違い	
— 収益率の単純平均と加重平均の違い	— ボトムアップ法とトップダウン法の違い	

Session 2 パフォーマンス測定の実務 I 11:30 ~ 13:00 (90分)

1. 貸残高・取引明細表からリターン計算まで	a. 日次厳密法	・日次厳密法リターンの計算式
・月次貸借対照表と月次損益計算書/ 運用実績表	b. 複利内部収益率リンク法	— キャッシュフロー発生のみなし方 によって計算パターンはさまざまに
・時間加重収益率計算明細書/現金残高表	c. 複利内部収益率リンク簡便法	・買い始めと売り切り時のリターン
・各計算数値例とポイント解説	d. 修正ディーツ法	— 買い始め、売り切り時の双方に 対応できる計算方法とは
2. パフォーマンス要因分析の実際 I	e. ディーツ法	
・リターン計算におけるキャッシュフロー	・グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS)	
・キャッシュフローによる収益の調整	— GIPSの理念と準拠/主な必須基準	
— キャッシュフローの立て方(事例解説)	・日次厳密法リターン	
・時間加重収益率の種類と計算式	— 理論上のリターンと実務上の比較/ 測定に最適な計算方法とは何か	

Session 3 パフォーマンス測定の実務 II 14:00 ~ 15:30 (90分)

1. パフォーマンス要因分析の実際 II	・超過リターン	a. ポートフォリオ誤差 — ポートフォリオ誤差を小さくするには
・日次厳密法リターンと時価評価	— 対ベンチマーク超過リターンを算術的 でなく幾何的に計算する利点	b. ベンチマーク誤差 — ベンチマーク誤差を小さくするには
— 不正確な時価評価によってリターンが ゆがむ具体例	・プリンソン要因分析理論の基礎	c. リンク誤差 — 2期間におけるリンク誤差の比較例
・日次厳密法と修正ディーツ法の比較	— Brinson-Fachlerモデルの計算式と 要因分解が成立する理由	d. プリアデス累積方式 — プリアデス 累積方式のメリットと理論的な意味
— 修正ディーツ法リターンの特徴と ゆがみの例	・複合効果	・個別銘柄寄与度
・コンポジット・リターン	— 要因分析表における複合効果の表示方法	— 株式ポートフォリオでの測定例
— 途中解約などで1年間を通して存在 しなかったファンドのリターン算出法	・要因分析の誤差項	
	— 要因分析の誤差の理由は必ず説明できる	

Session 4 パフォーマンス測定の実務 III 15:30 ~ 17:00 (90分)

1. パフォーマンス要因分析の実際 III	・オルタナティブ運用等の要因分析	・実績トラッキング・エラーの計算方法
・複数セクターによる要因分析	— さまざまな運用スタイルにおける リターンを要因分解	— 平均2乗誤差と標準偏差、 それぞれの利点と数値例
— セクター切り口のの違いによる銘柄選択 効果の意味の違い	— どのような運用スタイルであっても、 要因分析ロジックを構築するための 頭の働かせ方はただひとつ	・インフォメーション・レシオ
・複数セクターによる多段階要因分析	— リターンとリスクの総合評価	— 数値例と評価方法について
— サブ・セクター構成比の正規化と 国内債券の要因分析における例	— リスク調整後リターンとは	・インフォメーション・レシオの計算方法
・要因分析における構成比の正規化	・標準偏差とシャープ・レシオ	— 計算方法の違いと問題点、 t検定との関係
— ベンチマーク構成比の正規化と 正規化を行わない場合の数値例	— シャープ・レシオの計算方法	・負のシャープ・レシオと インフォメーション・レシオ
・オフバランスを含む運用の要因分析	・トラッキング・エラー	— 評価方法におけるさまざまな考え方
— オフバランスを用いた場合と 用いなかった場合で効果の違い	— 推定トラッキング・エラーと 実績トラッキング・エラー	

講師	Session 1: 横山 陽一 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニアチーフエキスパート
	Session 2 & 3: 内田 昌孝 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニア・マイスター
	Session 4: 横山 陽一 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニアチーフエキスパート

資産運用業界では、グローバル化と高度化が進展し、IT（情報技術）との関係がますます密接になっています。各部門で多様なITが活用される中、全社的なIT環境を把握し、現状からの転換を図ることは、経営上の重要課題です。本講義では、IT環境の刷新に着目し、資産運用会社のシステム全体像、ITの実装及びIT戦略の立案におけるポイントを解説します。IT業務に携わる方はもちろん、経営層にとっても有益な内容です。

Session 1 資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム 10:00 ~ 11:30 (90分)

現在資産運用業界で使われている標準的なシステム機能の配置・構成や、そこで取り扱う基本的なデータの構造を概観し、その中で最も古くからシステム化されてきたバックオフィス・システムについて、成り立ちから今後の変化の方向性について解説します。

1. バックオフィス・システム — 運用実績の記録と管理 <ul style="list-style-type: none">管理内容と役割位置づけ主な機能内容投資信託と投資顧問の違い欧米と日本の業務フォーマーションの違い日本におけるNAVの1者計算の議論	<ul style="list-style-type: none">取引データの管理項目と役割残高データの管理項目と役割取引データと残高データの関係／取引・残高から導出されるデータ	<ul style="list-style-type: none">運用業界に起こり続けるオペレーションの変化（まとめ）
2. 資産運用の基本データ構成 <ul style="list-style-type: none">資産運用システムにおける標準的なデータ・スキーマ（例）ファンド・口座・ポートフォリオ	3. インターネットからクラウドへ — システム環境の変化がもたらす業務プロセスの変化 <ul style="list-style-type: none">資産運用システムに変化をもたらす要因クラウド・サービスとは？データ連携手段の近代化と業務改革業務プロセスの共有	4. 外部とのデータ交換 <ul style="list-style-type: none">位置づけネットワークを用いたSTP主な外部ネットワーク（補論）社外システムとのデータ接続における留意点
		5. マーケット情報の管理 <ul style="list-style-type: none">位置づけデータの種類と利用方法（補論）マーケット・データのコスト問題

Session 2 フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応 11:30 ~ 13:00 (90分)

伝統的資産の運用執行をサポートするフロントオフィス・システムの役割と機能・データ構成を概観し、そのベースとなるポジションの管理視点の変化について解説します。また、伝統的資産と異なるオルタナティブ資産の管理のための機能について解説します。

1. 伝統的資産のフロントオフィス・システム <ul style="list-style-type: none">位置づけ 案件作成から執行・その確認機能構成図機能概要とシステムの効果システム化の効果機能イメージ求められる要件フロントオフィス・システムのデータ範囲フロント・ミドル・バックの必要データの違い	2. IBOR/ABOR 視点の変化がもたらすシステム構造の変化 <ul style="list-style-type: none">IBOR/ABORとは資産運用システムの管理データ範囲の変化バックオフィス・システムの本来の役割と現状近年のシステム構成 — アカウンティング・レス・バックオフィスIBOR導入による業務フローの変化IBORに関する共通認識の必要性機関投資家の意識変化	3. オルタナティブ投資の拡大がもたらす必要機能の変化 <ul style="list-style-type: none">オルタナティブ投資についてオルタナティブ投資のフロント・オフィス機能 位置づけ 運用対象の発掘と絞り込みオルタナティブ投資のフロント・オフィス機能 概要オルタナティブ投資のバック・ミドル・オフィス機能 伝統的資産と異なるプロセスの管理伝統的資産と異なるデータ管理
---	---	--

Session 3 ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理 14:00 ~ 15:30 (90分)

運用成果情報の管理と分析を行うミドルオフィス・システムの機能構成を概観し、運用成果をはじめとした各種データの管理について、EUC（エンド・ユーザ・コンピューティング）やDWH（データ・ウェアハウス）に着目して解説します。

1. ミドルオフィス・システム — 運用成果の分析と表明・報告 <ul style="list-style-type: none">位置づけ機能構成機能概要求められる要件	<ul style="list-style-type: none">基幹系システムからEUCへのデータ開放EUCによる業務プロセス構築時の留意点データ・ウェアハウスを中核としたEUC環境の整備ユーザ・インターフェースの工夫データ内容の理解度の向上策データ構造の工夫	<ul style="list-style-type: none">（補論）複数サービス・システム間の整合性確保
2. EUCとデータ・ウェアハウス <ul style="list-style-type: none">資産運用におけるEUCの位置づけ	3. モダン・データ・ハブへの発展 <ul style="list-style-type: none">企業を超えた運用成果データの共有	<補足> 他業態の資産運用システム構成 <ul style="list-style-type: none">資産管理会社機関投資家（プラン・スポンサーなど — 委託運用を中心とした構成）機関投資家（生損保など — インハウス運用をメインとした構成）

Session 4 IT業務と資産運用システムの実装計画 15:30 ~ 17:00 (90分)

最初に、ITセクションの担う「情報管理」業務の概要についてご説明します。また、システム投資の時期とバランス、アウトソーシングとシステム化の比較等、システム投資に関して考慮すべきポイントを挙げて解説します。

1. IT業務の概要 <ul style="list-style-type: none">システムの構成要素調達手段の変化クラウド・サービスの範囲IT部門の定常的な主要業務（例）システムの安定的な稼働 ①障害対策システムの安定的な稼働 ②災害対策（参考）テレワークを支えるITの仕組み	<ul style="list-style-type: none">外部の脅威からの防御老朽化対策 ITモダナイゼーションIT人材の不足	<ul style="list-style-type: none">AI活用レベル米国のAMへの活用状況のヒヤリングより活用事例
	2. データ・マネジメント業務 <ul style="list-style-type: none">データ・ウェアハウスの陳腐化問題データ・マネジメント組織（DMO）の必要性DMOの業務を支援するデータ・ウェアハウスの機能	4. システムライフサイクルとシステムの実装計画 <ul style="list-style-type: none">システムの導入目的の明確化IT化しない選択肢 — アウトソーシングシステム刷新と人材育成
	3. AIの活用	

講師	全セッション: 西野 俊介 セゾン投信 上級顧問 運用管理等担当
----	----------------------------------

あまり知られていない資産運用会社のトレーディング業務について、バイサイドトレーディングの全体像を解説します。具体的には、執行コンプライアンス、業務の流れ、コスト抑制方法、資産別の特徴やシステム、実務上の留意点について紹介します。本講義は最新情報を得る貴重な機会であり、売買実務者や金融市場関連の専門家に最適なプログラムです。

Session 1 バイサイドトレーディングの概要 10:00 ~ 11:30 (90分)

1. トレーディング業務の基本イメージ <ul style="list-style-type: none">トレーディング業務の流れ、及び部門の位置づけ	<ul style="list-style-type: none">米最高裁、SEC行政処分権限否定（2024年6月）の波紋に加えてトランプの専横に揺さぶられる市場秩序	<ul style="list-style-type: none">ベート授受スキーム“ペイメント・フォー・オーダーフロー”を原則禁止
2. バイサイドトレーディング部門のミッション <ul style="list-style-type: none">ファンドマネージャーとの役割分担と連携バイサイドにおける最良執行の定義 — 価格の妥当性判断、説明責任等狭義の執行コストと広義の執行コストの認識執行コスト・ベンチマーク対比とコスト削減への取組 — 執行コスト分析ツールの活用	<ul style="list-style-type: none">狭義の執行コストと広義の執行コストの認識執行コスト・ベンチマーク対比とコスト削減への取組 — 執行コスト分析ツールの活用	<ul style="list-style-type: none">日系運用会社の競争激化と生き残りのための高度化
3. 執行環境を激変させた3大潮流変化と一部反転・パラダイムシフトの兆し（理想と現実のギャップ） <ul style="list-style-type: none">①金融ITテクノロジーの進化による取引の高度化、多様化取引所売買システムのバージョンアップ、クロージング・オークション導入等の制度変更後の現状とHFT（高速・高頻度売買主体）の台頭がもたらす変化②世界経済危機（リーマン、コロナ）が金融規制と未曾有の金融緩和を誘発、パッシブ化に拍車③国内外の金融法制制定・規制見直しのインパクト	<ul style="list-style-type: none">金融規制強化によるポジション縮小と、大規模金融緩和で変わる証券会社のエクイティビジネス収益構造と大きな落とし穴（プライム・プロカレッジビジネスの甘い蜜と露呈した過大レバレッジ・与信リスク）リサーチは一部外注で、ソリューションビジネスやウエルスマネジメントに傾斜し、更には海外アセマネ取も進める野村、銀行との資本業務提携で富裕層向けコンサルや不動産ビジネスなどへ業容を拡げる大和…等々、興味深い外資、日系大手証券各社の重点ビジネス施策を比較米・日で進む個人向け手数料（投信・株式）ゼロ化の流れで問われる各社の収益多角化進展度EUは欧米の「ゼロ手数料」の原質（注文回送とり	<ul style="list-style-type: none">「金融行政の基本目標・方針 — “最良執行”に関する諸外国との対比“金融行政”への改革を加速する金融庁の「金融検査・監督の考え方と進め方」、及び最近の各施策2025年3月に「AIディスカッションペーパー」公表、同年6月からAI官民フォーラム開催2025年6月公表の「資産運用高度化プログレスレポート2025」で強調される日系運用会社の収益構造の歪と、プロダクトガバナンスの強化日本版EMP（新興運用業者促進プログラム）の進捗状況と課題日、米、欧対比で見るバイサイドの最良執行義務及び国内証券各社の「最良執行方針」最新改定内容業界リーディング企業や行政、取引所にまで広がる金融不祥事の由々しき事態と、不祥事対応のポイント

Session 2 エクイティトレーディング実務 11:30 ~ 13:00 (90分)

1. 取引の種類と執行方法 <ul style="list-style-type: none">エクイティ取引の種類 — ハイタッチ執行とロータッチ執行の分類多様化する執行手法（AIの活用領域等）と、それぞれのメリット比較	3. 電子取引の活用事例 <ul style="list-style-type: none">DMA、DSAアルゴリズム取引及び、アルゴ・ホイール（Algo Wheel）活用による業務のセミオートマチック化	5. 外国株式取引の実務 <ul style="list-style-type: none">時差のある市場における発注、約定処理のタイミングと取引手法各国市場の異なるルール把握と取引時留意事項（海外投資誘因目的で24時間取引を目指す米株市場）外国株運用の3形態外国株信用取引解禁欧米運用会社におけるグローバル資産トレーディング手法の傾向、及びアジア株取引におけるブローカー評価
2. 取引の実際 <ul style="list-style-type: none">執行プラン立案、及び実際の発注と執行プロセスのモニタリングポートフォリオのリバランスとバスケット取引執行時の留意点（ブライド・バスケット等含む）	4. 取引所外流動性（代替執行市場）へのアクセス <ul style="list-style-type: none">PTSとダークプール、及びこれらを活かすSOR（Smart Order Routing）オーダー秘匿性の観点から機関投資家も神経を尖らす、HFTのダークプール及びPTS利用態様（レイテンシー・アービトラージ等の実態）	

Session 3 債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務 14:00 ~ 15:00 (60分)

— エクイティトレーディングとの差異を中心に解説 — （下記項目に関する詳細はテキスト巻末に記載）

1. 取引の概略	<ul style="list-style-type: none">2025年6月に日証協がガイドラインを公表した社債市場活性化策（社債発行時コベナンツ付与、等々）	4. 外国為替取引 <ul style="list-style-type: none">実需為替（カバー為替）における留意事項ヘッジ為替における留意事項、その他の留意事項と、NDF取引
2. 国内債券取引 <ul style="list-style-type: none">債券売買業務の流れと実務上の留意点機関投資家利用拡大でプレゼンスを高める債券ETFなど投資ピーク変化の現状日銀政策変更の思惑から一時増加した“フェイル”や、その他国内債券関連リスク解説	3. 外国債券取引 <ul style="list-style-type: none">取引時の留意点（時差、決済サイクル、為替の手当て、新発債起債時のPot方式とリテンション方式、等々）従来のボイス取引に加え年々増加する電子取引や、ポートフォリオ取引、債券ETFの活用実態	5. 短期資金取引 <ul style="list-style-type: none">日銀マイナス金利解除、その後の利上げに伴う余資運用の変化（コール/ONのディーリング、ブローキング例等々）

Session 4 執行コンプライアンスとトレーディング関連事項 15:00 ~ 17:00 (120分)

1. グローバル潮流の変化と、国内市場へのインプリケーション <ul style="list-style-type: none">理想（公平性、透明性強化の思惑）と現実（看過出来ないビジネスへの逆風）のギャップで挫折したMiFID2の看板規制“コミッション・アンバンドリング”（株式委託手数料の内訳開示）EU、英国、各金融当局の同規制への当初の思惑と誤算、及び国内公的年金の“ソフトダラー”に対するスタンスコミッション・シェアリング・アレンジメント（CSA）内容と、“日本版CSA”実現の難しさ金融不祥事処分権限における行政と司法のせめぎあい（米最高裁 vs SEC、国内行政処分後の裁判事例）	<ul style="list-style-type: none">HFTの主な取引ストラテジーと、それらのシェアPTSによる信用取引認可（2019年8月）によるシェア拡大後、更なる好影響が期待された2023年1月施行の政省令改正（個人向け取引のプライス重視執行義務付け）の現状 — “Comply or Explain” —楽天HDの新規参入で4社体制となった国内PTSの現状と今後の展望	<ul style="list-style-type: none">評価項目と評価実務、及び関連部門間の評価ウエイトの考え方 — 悩ましい“リサーチ”評価の対応等評価結果レビューの考え方や留意点（運用会社もブローカーから“評価”されている）債券、為替取引ブローカーの評価と選定（何故、債券・為替業者のスコアリングが一般的ではないのか）発注停止・発注先リスト除外措置の考え方や一般的なルール（最近の当局発告事例への対応と併せて解説）
2. 国内市場における執行コンプライアンス関連 共通課題と最良執行への取り組み <ul style="list-style-type: none">HFT（高頻度・高速取引）唯一の日系ファームを含む登録業者の素顔と内外当局による規制、及び登録業者の少なからぬ離脱に見る厳しい競争の実態（金融庁によるHFTへの監督指針内容等も含む）	3. 執行コンプライアンスと社内牽制機能の実際 <ul style="list-style-type: none">牽制・監視機能と売買監査の基本項目執行コンプライアンス・チェックのポイント — 特に法令違反回避に向けた留意点金商法上の禁止行為等（相場操縦）と看做されて証券取引等監視委員会に告発された最近の事例解説トレード・モニタリングの実務（株式IPO、新発債応募ルールのポイント等含む）	5. トレーディングシステム・インフラ（各種ツールの主要機能の違い、特徴等も解説） <ul style="list-style-type: none">OMSとEMS（選定・導入のポイント）電子取引ツールと執行分析ツール“AIトレーディング”の期待と現実（アカウンタビリティの壁等々）、RegTech（レグテック）の進化“AI官民フォーラム”（2025年6月）で一部参加者から提示されたAI規制整備に向けた4つの懸念
	4. ブローカー選定・評価ポリシーと実務 <ul style="list-style-type: none">ブローカー選定規則の枠組みと選定委員会の設置ポリシー	

ポートフォリオマネジメント業務

— 差別化に注目して —

5/21 木

講師 全セッション： 柏原 延行 丸三証券 常務執行役員 投資信託部長 チーフ・グローバル・ストラテジスト

講師は、みずほフィナンシャルグループの資産運用会社で30年近く運用部門に勤務し、現在は販売会社の商品選定部門で活躍しています。運用会社での経験と外部からの視点を活かし、差別化を重視したポートフォリオマネジメントを解説します。内容は、資産運用会社の現状、必要なプロダクト、株式アクティブ運用の実例、為替とデリバティブの活用について、わかりやすく説明します。

Session 1 資産運用業界の現状と運用の基礎知識

10:00 ~ 11:30 (90分)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1. 資産運用業界の現状と今後の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの箱（投資顧問と投資信託）とその特徴 資産運用会社の経営戦略（本当に成長産業なのか？） <p>2. 商品の特徴を理解するための基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> マーコビッツのポートフォリオセレクション 効率的市場仮説 | <ul style="list-style-type: none"> シャープによるベータ値の導入、CAPM アノマリーが存在 行動ファイナンス理論 <p>3. 取扱商品の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> — メリット、デメリットに注目、どのような批判があるか？ パッシブ運用 — ただ乗り？ — | <ul style="list-style-type: none"> アクティブ運用 — ベンチマークに勝つためには？ — パッシブとアクティブの関係は？ クオンツ運用 — 伝統的なファンドマネジメントとの相違点 — オルタナティブ運用 — 最も注目を集める投資手法？ — |
|---|---|--|

Session 2 どのようなプロダクトが必要なのか

11:30 ~ 13:00 (90分)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1. 家計の資産運用の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 100年安心年金の仕組み（年金制度自体は持続可能、しかし…） 限定的な家計の資産運用 — 預金への偏重 — 預金へ偏重しても問題なかった？ — 重要なことは購買力の維持 — インフレでなくても失われた購買力 インフレになると — 不動産がインフレヘッジ機能を喪失 — | <p>2. 家計の資産運用が定着しない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮説 — 金融リテラシー or 株式市場の不振 or 円高 or 金融サービスの担い手の問題 — <p>3. 運用会社の課題と変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 機関投資家ビジネスと家計向けビジネス等 資産運用業高度化プログレスレポート 2022、2023、2025 多すぎるプロダクトと新規設定 | <p>4. 有望なプロダクトは？</p> <ul style="list-style-type: none"> インデックス（スマートベータ）？ 預金代替？ アクティブ？ <p>5. 差別化の源泉は</p> <ul style="list-style-type: none"> アセットクラス 定量面 定性面 |
|---|---|--|

Session 3 株式アクティブ運用を例として

14:00 ~ 15:30 (90分)

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般論 大規模な会社と小規模な会社 <p>2. 意思決定プロセス確立の重要性</p> <p>3. 運用スタイル</p> <p>4. 成長性分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 段階 | <ul style="list-style-type: none"> 定量 収益モデル 経営戦略分析 <p>5. バリュエーション分析</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチプル型 割引型 その他 | <p>6. その他の投資判断の材料</p> <ul style="list-style-type: none"> — マクロ、セミマクロの環境を理解することの重要性 <p>7. リスクモデルによるリスクコントロール</p> <p>8. アクティブ運用の評価方法</p> |
|---|--|--|

Session 4 為替とデリバティブの利用

15:30 ~ 17:00 (90分)

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. プロダクト理解のための理論：為替編</p> <ul style="list-style-type: none"> 為替取引とは（スポットと為替予約取引、先渡し、先物） 為替取引によるプレミアム（金利平価説の観点から） | <p>2. プロダクト理解のための理論：デリバティブ編</p> <ul style="list-style-type: none"> ペイオフパターン図 オプション（その種類と特殊な条項） 具体的な商品例 | <ul style="list-style-type: none"> キャッシュフロー オプションの価格はどのように決定されるのか？（モンテカルロの仕組みとブラックショールズモデル） オプションが現物市場に与える影響（デルタの概念とデルタヘッジ） |
|---|--|--|



オルタナティブ投資関連業務

<不動産ファンド/J-REIT編>

5/22 金

講師 Session 1 & 2： 大谷 咲太 三井住友トラスト基礎研究所 投資調査部長 上席主任研究員
Session 3 & 4： 堀 明希子 三井住友トラスト基礎研究所 REIT 投資顧問部 上席主任研究員

不動産ファンド・J-REITは、不動産の安定性と金融商品の利便性を兼ね備えた投資対象として注目を集めています。本講義では、不動産と金融の両面から、基礎知識から市場予測、リスク管理、投資実務、最新の市場動向まで幅広く解説します。初心者にも理解しやすい実務・応用編として、不動産ファンド・J-REITの運用に必要な知識と留意点を詳しく説明します。

Session 1 不動産投資とは

10:00 ~ 11:00 (60分)

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1. 不動産投資の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> 不動産の特性 — 株・債券投資とは何が違うか？ 不動産投資商品の種類 <p>2. 不動産投資の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 不動産市場の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 不動産証券化商品が生まれた背景、意義 ⇒ 不動産証券化の仕組みと法制度 ⇒ 不動産投資商品の特性 — どの商品を選ぶべきか？ ⇒ 実物不動産 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 不動産ファンド（J-REIT、私募ファンド、私募REIT） ⇒ 市場規模とリスクリターン特性 ⇒ 不動産価格の考え方 ⇒ NOI、キャップレートなど |
|---|--|---|

Session 2 不動産市場の読み方とリスク管理手法

11:00 ~ 13:00 (120分)

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1. 不動産賃貸市場の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要プロパティタイプ別の特性（オフィス/住宅/商業施設/物流施設/ホテル/その他） 賃貸市場の分析手法 — 需給構造の捉え方 賃貸市場の動向と見通し — 有望なタイプはどれか？ <p>2. 不動産投資市場の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> エクイティ投資家の動向と見通し ⇒ SWF ⇒ 年金基金 ⇒ 生損保 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ その他海外投資家等 レンダーの動向と見通し ⇒ 主要銀行の動向 ⇒ 金利・期間・LTVの推移と見通し ⇒ エリア・タイプ別の取引動向、プレイヤー別の取引動向 ⇒ 不動産取引市場のサイクル <p>3. 不動産投資のリスク管理手法</p> <ul style="list-style-type: none"> リスク管理の必要性 不動産リスクの計量方法 ⇒ 伝統的な方法（VaRなど） ⇒ シナリオ分析によるストレステストなど | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 予兆管理によるリスク管理 — 価格上昇・下落のタイミングを先読みする ⇒ 不動産価格DIによる予兆管理 — 降水確率（不動産価格の下落確率）をモニタリング ⇒ ヒートマップによる予兆管理 — 雲の動きをモニタリング ⇒ リスク管理を行動につなげる ⇒ リスク管理手法の選択 ⇒ リスク管理を行動につなげるための社内体制 |
|--|---|--|

Session 3 J-REIT 投資実務 I

14:00 ~ 15:00 (60分)

- | | | |
|--|--|--|
| <p>1. J-REITの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本構造 市場概況 （保有資産、セクター配分、投資家動向） 商品特性 （リスク・リターン特性、他資産との相関） | <p>2. J-REITの成長メカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> 分配金とNAVの成長メカニズム プレミアム増資効果 物件取得のハードルレート — インプライド・キャップレート 成長サイクル — 理論と実際 | <ul style="list-style-type: none"> 内部留保 利益超過分配 自己投資口取得 — 効果と成長サイクルにおける位置づけ |
|--|--|--|

Session 4 J-REIT 投資実務 II

15:00 ~ 17:00 (120分)

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1. J-REITの運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 分配金とNAVの推移 ⇒ セクター別の稼働率 ⇒ ポートフォリオのNOI利回り ⇒ 物件取得額・譲渡額、取得NOI利回り ⇒ 賃貸EPS ⇒ 不動産売却益、含み益 財務運営における注目点 ⇒ LTVコントロール（簿価LTV、時価LTV） ⇒ 負債コスト — 金利上昇の影響 ⇒ エクイティ調達、自己投資口取得 | <p>2. 銘柄評価、モニタリングの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 銘柄評価・モニタリングのプロセス 銘柄評価の主な視点 ⇒ ポートフォリオ戦略 ⇒ 不動産運用力、物件取得力 ⇒ 資金調達力、財務戦略、金利上昇に対する耐性 ⇒ 運用体制、ガバナンス 重視される主な定量指標 リスクイベントの発生と対応 ⇒ 大口テナント退去 ⇒ 災害 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ ESGへの取り組み ⇒ J-REITにとってのESG、取り組み評価の視点 ⇒ 最新動向 <p>3. バリュエーションの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な投資判断指標 ⇒ 予想配当利回り ⇒ P/NAV ⇒ インプライド・キャップレート 日本株との対比 ⇒ セクター別、銘柄別のバリュエーション比較 ⇒ 銘柄別のバリュエーション比較 |
|--|---|---|

バックオフィス業務<投資顧問・投資一任編> 5/25月

講師 全セッション：和村 雅義 エクسسネット シニアコンサルタント

資産運用会社のバックオフィス業務は、フロント業務に比べて紹介される機会が少ないですが、組織内で非常に重要な役割を果たしています。本講義では、投資一任業における管理業務を体系的に学び、ファンド管理やデータ利用の実態、信託報告書との照合作業などを詳しく解説します。実務者だけでなく、システムソリューション担当者にも有益な内容です。

Session 1 バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務 10:00 ~ 12:00 (120分)

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1. バックオフィス業務の概観</p> <p>— ファンド管理システムを中心とした業務概観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インプットとアウトプット/ファンド管理データの要件 <p>2. ファンド属性設定・銘柄属性設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンド属性の確認 — 正確なファンド情報入手/手続きの事前確認/事前確認の主な留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ファンド属性の登録 — 正確なファンド属性の登録/ファンド属性の種類/ファンド属性の項目 ・銘柄属性登録および時価情報入手 — 国内証券/外国証券および替レートの流れ ・日次業務の流れ ・月次・四半期業務の流れ | <p>4. 法定帳簿等の電子化および法定に基づいた保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法定帳簿(運用報告書)の保存 ・信託報告書 ・その他保存必要書類(議決権行使の招集通知、判定書、指図書) ・その他保存必要書類(日次・月次処理における証跡書類) |
|---|---|--|

Session 2 約定処理と株式議決権行使の実務 12:00 ~ 13:00 (60分)

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1. 約定処理(国内資産)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内資産約定処理/一般振替DVP制度 <p>2. 約定処理(海外資産)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外証券の決済 — 決済と保管の形態とコントラクト決済/外国カストディ決済のスケジュール/現地決済資金のフロー/外国証券約定処理 | <ul style="list-style-type: none"> ・為替約定管理/決済とフェイル管理/為替紐付け/カバー&ノンカバー経理 ・ノンカバー取引における外貨預金と未収・未払金/外貨建証券ノンカバー取引の仕訳 ・約定ベース・ノンカバー処理(外国株式：売り) | <p>3. 株式議決権行使</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議決権行使の対象ファンド ・議決権行使の方法と日本株式の議決権行使 ・日本株式の議決権行使(ICJ等利用例)/外国株式の議決権行使(ISS等利用例) |
|---|---|---|

Session 3 ブッキングと信託報告書との照合手順 14:00 ~ 15:30 (90分)

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1. ファンドの報告概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用報告書と信託報告書 ・ファンドの会計基準 ・実現主義と発生主義 ・時価総額の構成要素 ・各種利回り計算要素 ・時間加重収益率(簡便法/修正ディーツ法/厳密法) <p>2. ファンドの照合実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照合・突合とは | <ul style="list-style-type: none"> ・照合準備のための補充データの入力 ・補充データの種類とキャッシュ残高の照合 ・相違の概略の把握(B/S・P/L照合) ・銘柄別簿価残高照合と売買損益(キャピタル)の修正 ・簿価相異の典型的ケース ・銘柄別時価残高と未収収益の照合 ・報告書の最終チェック <p>3. 決算処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンド毎の計理基準と決算処理 | <ul style="list-style-type: none"> ・元加と収益払い出し(簿価会計/時価会計) ・決算処理での留意点 <p>4. データ・ブッキングの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日次データ・ブッキングの目的 ・キャッシュフロー関係データとキャッシュ残照合 ・取引の約定データ ・時価、未収、権利処理 ・銘柄別簿価等残高照合 |
|--|---|--|

Session 4 ディスクロース資料と運用報告の実務 15:30 ~ 17:00 (90分)

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. 運用報告書の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法定書面 ・顧客指定フォーマット ・運用会社フォーマット <p>2. 法定書面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金融商品取引法42条の7【運用報告書の交付】 ・金融商品取引法27条の24【株券保有状況通知書の作成及び交付】 | <p>3. 運用報告の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本はPlan → Do → Check → Action <p>4. 運用報告の実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告のタイミング ・運用報告書の構成例 ・四半期レポート ・市況概況と投資行動 ・資産収益状況 ・リスク/リターンと要因分析等 | <p>5. 投資顧問料業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なバリエーション ・請求業務と運用会社の管理会計 |
|---|--|--|

企業価値評価・投資戦略のためのリサーチ・アナリスト業務<無形資産評価基礎編> 6/2火

講師 全セッション：三浦 毅司 元 クレディ・スイス証券 株式調査本部 株式調査部 ヴァイス・プレジデント/日本知財総合研究所 代表取締役 CEO

企業価値評価手法は今やすでに爛熟期にあり、無形資産評価は数少ないブルー・オーシャン分野です。重要とされながらも、ほとんど手付かずになっている知的財産・特許情報について、入手・読解するノウハウを身につけることで、企業価値評価や企業の投資戦略を把握する力が向上します。定量スコアを用いたバリュエーションの実務応用も体系的に学び、競争優位を築くための手法を解説します。

Session 1 無形資産/知財に関する基礎知識 10:00 ~ 12:00 (120分)

- | | | |
|---|--|---|
| <p>プロローグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色発光ダイオードの特許価値はいくら? <p>1. 無形資産、知財資産とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形資産の種類 ・知財資産の事例と特徴 | <p>2. 無形資産の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形資産の評価 — いい特許、悪い特許 ・無形資産担保の考え方 ・企業価値担保権 <p>3. 諸外国の制度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各国の制度 ・歴史的な流れ <p>4. 知財情報の入手方法と内容の読み解き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許庁サイトの使い方と特許情報の読み方 |
|---|--|---|

❖ コーヒーブレイク1：ノーベル賞受賞者が出遅れた特許出願(ゲノム編集)

Session 2 特許情報と投資判断 12:00 ~ 13:00 (60分)

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1. 投資対象としての、株式と特許の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケット ・プレイヤー <p>2. 特許と業績・株価との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許価値からアウトパフォーム企業を探す ・特許と業績の相関が高い業種・低い業種 | <ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブイベントチェックに必要な情報 ・侵害訴訟によるダメージ ・特許調査の重要性 <p>3. 有効性判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許の賞味期限の測り方 ・安定した開発の重要性 — パテントクリフ | <p>4. その他、留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許の費用 ・コーポレート・ガバナンス・コード改訂(2021年6月11日施行) |
|---|---|---|

❖ コーヒーブレイク2：コロプラのメタバース市場における将来性

Session 3 最近の無形資産に関する話題 14:00 ~ 14:30 (30分)

- | | |
|-------|-------------------|
| 1. DX | 2. 対話型AI(ChatGPT) |
|-------|-------------------|

Session 4 特許の定性的価値評価および金銭的(定量的)価値評価の手法 14:30 ~ 16:00 (90分)

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1. 個別特許の定性的評価手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目 ・簡易評価の有効性と使用機会 ・具体的な利点と使用方法 <p>2. スコアによる定性的価値評価(簡易評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場アプローチ ・コストアプローチ ・インカムアプローチ <p>3. 特許の金銭的(定量的)価値評価手法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・マーケットアプローチ ・コストアプローチ ・インカムアプローチ <p>4. 非上場企業評価および業界トレンド予測への応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤字続きのベンチャー企業 | <ul style="list-style-type: none"> ・売上のないスタートアップ企業の評価 ・特許と業績の相関性の高い業種、低い業種 ・キーワードによる業界トレンド予想 |
|--|---|---|

❖ コーヒーブレイク3：日本製鉄のトヨタ提訴

Session 5 特許の金銭的(定量的)価値評価事例とミニ演習 16:00 ~ 17:00 (60分)

- | | | |
|-----------------------|-----------------|--------------|
| 事例1) 過去の特許料：青色発光ダイオード | 事例2) 将来価値：オブジーボ | 事例3) 将来価値：A社 |
|-----------------------|-----------------|--------------|



リーガル&コンプライアンス ＜基本スキル編＞

半日講座

6/5 金

講師 全セッション：小野 高央 弁護士/アセットマネジメントOne リスク管理本部 副本部長

資産運用立国が掲げられている今、資産運用会社が直面する複雑な法規制、高度化する運用手法、多様化する投資対象資産に対応するためのリーガルおよびコンプライアンスの基本スキルを解説します。法令遵守だけでなく、社会的・道徳的責任も果たすための高度なガバナンス・コンプライアンス態勢の構築に必要な法理論やリスクコントロールの基礎を学び、リーガル&コンプライアンス・オフィサーとしての能力向上を目指します。

Session 1 リーガルの基本スキル

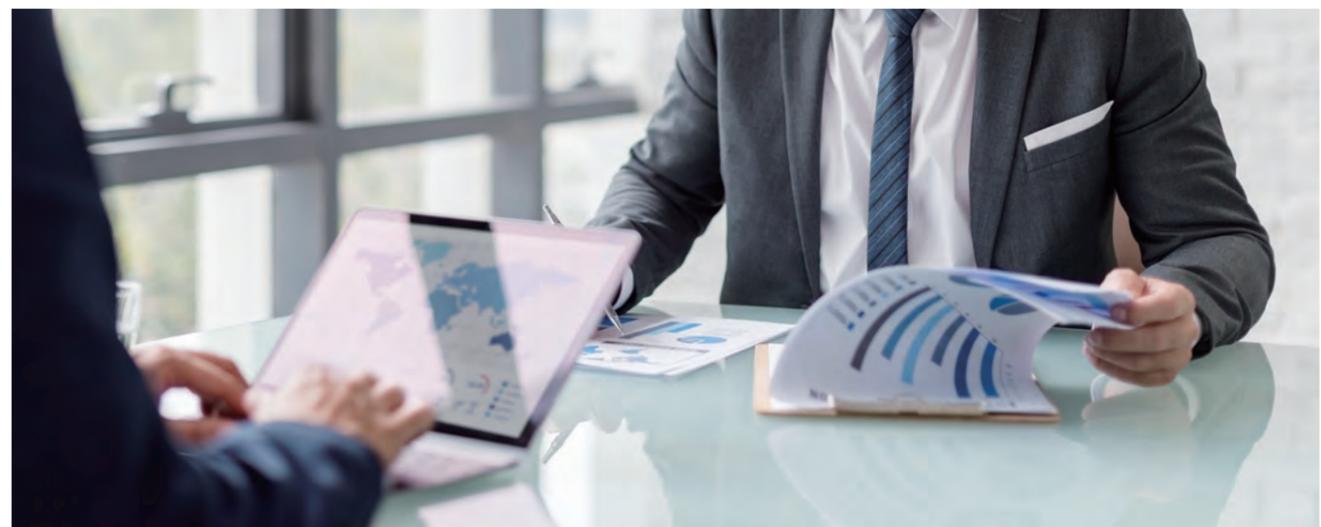
13:00 ~ 15:20 (140分)

- | | | |
|--|--|---|
| <p>1. 法規制の構成と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 投資運用業に係る法規制の構成と範囲 業者に適用される主要法令 顧客に適用される主要法令 法令理解のための基礎 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 法律・政令(施行令)・省令(施行規則) ⇒ 公法と私法 ⇒ 法概念の相対性 ⇒ 特別法と一般法 ⇒ 強行法規と任意法規 法令以外の理解のための基礎 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 監督指針、協会自主規制ルール、等 <p>2. 違反した場合の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 違反した場合はどうなるか <p>3. 資産運用業者に適用される法令</p> <ul style="list-style-type: none"> 投資運用業 投資助言・代理業 | <ul style="list-style-type: none"> ・第二種金融商品取引業 <p>4. 代表的な義務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善管注意義務 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 注意義務とは ⇒ 民法上の善管注意義務、会社法上の善管注意義務、金商法上の善管注意義務、慎重な専門家の注意 ・法概念の相対性 ・忠実義務 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 忠実義務とは ⇒ 忠実義務の理解 <ul style="list-style-type: none"> — 善管注意義務との関係 ⇒ 投信約款と忠実義務 ⇒ 投信における約款の法的性質 ・再信託 ・カストディアン ・説明責任 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 説明責任とは ⇒ ヴィークルによる相違 <ul style="list-style-type: none"> ・誠実・公正義務 ・適合性原則 ・損失補填等の禁止 ・特別利益の提供の禁止 ・ファンド訴訟 ・投資運用関係業務 <p>5. 資産運用業者の法務部の実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務範囲の確認 ・防衛法務と戦略法務 ・顧問弁護士との付き合い方 ・社内弁護士の活用 ・予算管理 ・Legal Tech |
|--|--|---|

Session 2 コンプライアンスの基本スキル

15:20 ~ 17:00 (100分)

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1. 受託者責任の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> 受託者責任とは なぜ受託者責任が生じるのか? <ul style="list-style-type: none"> — 発生のメカニズムが分かれば対処も分かる ⇒ 金融商品取引業者等における受託者責任 分別管理 兼業規制 自己執行義務 開示の目的と効果 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 民法上の報告義務 <ul style="list-style-type: none"> — 受任者による報告 | <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 依存度と開示の関係 <p>2. コンプライアンスの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスとは何か <ul style="list-style-type: none"> — 狭義のコンプライアンスと広義のコンプライアンス ・コンプライアンスに係る環境変化 <p>3. コンプライアンス態勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態勢構築の目的 ・態勢構築の手順(一例) ・連携体制の構築 ・金融庁指針等 | <ul style="list-style-type: none"> ・最近の当局の動き <p>4. 近年企業に求められるコンプライアンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSR、公益通報、コンダクトリスク ・ダスキン株主訴訟(大阪高判平成18年6月9日) ・ビックモーター事件 ・インサイダー取引規制違反 <p>5. リーガル・コンプラに関わる最新のトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイバーリスク |
|--|---|---|



リスク管理業務

6/9 火

講師 全セッション：工藤 協一 パーテックス・インベストメント・ソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長

資産運用会社におけるリスク管理業務を概観します。内部統制態勢が整備される中で、リスク管理業務も高度化が進んでいます。これまでの顧客資産の運用リスク管理にとどまらず、資産運用会社には保険会社や銀行と同様に自己資本のリスク管理が求められ始めています。このような環境下で、資産運用会社に求められるプリンシプルベースのリスク管理態勢について、その概要と具体的手法を解説します。

Session 1 リスク管理と内部統制

10:00 ~ 11:30 (90分)

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1. コーポレート・ガバナンスと内部統制</p> <p>2. リスク管理をめぐる外部動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制の世界的な流れ ・日本における導入の背景 ・内部統制の動向における「COSO」の位置付け | <p>3. 監督官庁等が公表した文書等の概略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督官庁の組織 ・監督指針とは ・検査マニュアルとは <p>4. 失敗事例から学ぶ</p> <p>5. 「心理バイアス」による合理的判断への影響</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・コイン投げの事例 ・損益認識の事例 <p>6. リスク管理のポイント</p> |
|---|---|---|

Session 2 運用リスク管理

11:30 ~ 13:00 (90分)

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1. 運用リスクの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場リスク — 金利リスク、価格変動リスク、為替リスク ・信用リスク ・取引先リスク ・流動性リスク <p>2. リスク顕在化の具体例</p> <p>3. 市場リスク管理の具体的な方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジション管理 ・リミット管理 ・市場リスク量管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別案件リスク管理 ・市場リスク量 — 市場VaRの計測手法 ・市場VaRの計算 — 分散共分散法 <p>4. 信用リスク管理の具体的な方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信用VaRの計算 — モンテカルロ法 <p>5. 取引先リスク管理の具体的な方法</p> <p>6. 流動性リスク管理の具体的な方法</p> <p>7. VaR計算における各種設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有期間 ・信頼区間 ・データ取得期間、取得間隔の影響 | <ul style="list-style-type: none"> ・設定の難しさ ・VaR以外の定量的リスク把握方法 ・ストレス・テスト <p>8. 外部委託先管理の具体的な方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デューデリジェンス ・自社運用と同様のモニタリング ・自社運用とは別のリスク管理 ・実地調査 ・主なチェック項目 |
|---|--|---|

Session 3 オペレーショナル・リスク管理

14:00 ~ 15:30 (90分)

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1. オペレーショナル・リスクの種類</p> <p>2. オペレーショナル・リスクとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭義のオペレーショナル・リスク ・広義のオペレーショナル・リスク ・オペレーショナル・リスクの特徴 ・リスク管理の代表的手法 ・発生頻度と影響度の把握(リスクマップ) ・リスク管理の一般的な考え方 | <p>3. CSA (Control Self Assessment)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本でのCSA実施状況 ・CSAによる業務改善サイクル ・評価対象とするリスクの概要 ・なぜCSAを実施するのか ・取り組み手順 ・実施における鍵 | <p>4. オペレーショナル・リスクの定量化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な定量化手法 ・リスク・マップと推計手法 ・リスク量定量化の状況 ・ボトム・アップによるリスク量定量化の課題 |
|---|--|---|

Session 4 統合リスク管理

15:30 ~ 17:00 (90分)

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. 顧客資産と自己資金のリスク管理範囲の違い</p> <p>2. 統合リスク管理の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前提認識 ・基本的なコンセプト ・(参考)従来型財務分析手法との比較 ・発展の経緯 <p>3. 統合リスク管理の実務</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・計測方法 ・計算事例 ・リスク定量化の進展と普及 ・定量化の前提としてのデータ整備 ・定量化における留意点 ・リスクの受け皿としての資本 ・(参考) BIS規制、SM比率での資本認識 | <ul style="list-style-type: none"> ・統合リスク管理のフレームワーク ・ストレス・テスト <p>4. 統合リスク管理のまとめ</p> <p>5. コンダクトリスクとは</p> <p>6. 最近の金融行政に関するまとめ(最新)</p> |
|---|--|--|



バックオフィス業務<投信編>

6/12金

投信基礎

投信計理(基準価額算定)

決算関連(分配金算定)

外投組入ファンド・オブ・ファンズ

講師 全セッション: 東中川 教明 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント ファンド・コントローラーズ部長

投資信託の管理業務を体系的に学びます。オペレーション全体を把握し、(1) 約定・受渡しに関する業務(2) 基準価額の計算に関する業務(3) 決算に関する業務(4) 追加・解約に関する業務を理解します。さらに、業界の課題を明確化し、「ごんべんけいり」と呼ばれる独特な計理仕訳などグローバルな視点からも紹介します。

Session 1 投資信託のしくみと委託者の役割

10:00 ~ 12:00 (120分)

- | | | |
|--|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資信託の法令と規則 2. ファンドの形態と関係法人 <ul style="list-style-type: none"> ・契約型と会社型 ・投資信託・投資法人の分類 <ul style="list-style-type: none"> — それぞれの純資産総額及びファンド本数 ・公募と私募の違い ・契約型ファンドの分類と具体例 ・マザーファンドとベビーファンド <ul style="list-style-type: none"> — ファミリー方式のメリット 3. 基準価額計算及び追加・解約の流れ 4. 投資信託に関するオペレーション業務 <ul style="list-style-type: none"> ・1日の業務の流れ(約定関連業務、追加・解約関連業務、基準価額計算関連業務) ・投資信託に関するシステム ・資金繰り照合 | <ul style="list-style-type: none"> ・マイナス金利対応 ・追加・解約 ・約定処理 ・時価評価 ・報酬及びファンドの諸費用と計上方法 ・利金・配当金・コーポレートアクション ・基準価額の照合 <ul style="list-style-type: none"> — 相違の原因をいかに迅速に見出すか <ol style="list-style-type: none"> 5. 自社算出と受任銀行に業務委任する場合の違い <ul style="list-style-type: none"> ・受任銀行に計算業務を委託する場合と主な役割分担 6. 投信振替制度 <ul style="list-style-type: none"> ・投信振替制度移行後の相関図 <ul style="list-style-type: none"> — STPとDVPの実現 ・振替投信移行後の非DVP決済の資金の流れ | <ul style="list-style-type: none"> ・受益証券の発行・管理と受益証券券面について ・基準価額適用日および元本の増減 ・プラインドルル/希薄化 <ol style="list-style-type: none"> 7. 法定帳簿の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・法定帳簿の種類と電磁的方法による保存 8. レポート作成業務 <ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表 ・運用報告書 ・特別勘定のしおり ・BISリスクアセットレポート/諸官庁・投信協会へのレポート 9. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ファンドの監査(公募投信/私募投信)と価格調査 |
|--|---|---|

Session 2 計理仕訳 + ミニ演習

13:00 ~ 15:00 (120分)

- | | | |
|--|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 計理仕訳(主な計理処理について基本から例題を用いて解説) <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な考え方 — 複式簿記と日計表 ・基準価額の計算方法 ・ファンド設定時 ・株式約定 ・債券約定 | <ul style="list-style-type: none"> ・先物(買建&売埋め) ・ファンド・オブ・ファンズ ・外貨建資産(為替送金、回金) <ul style="list-style-type: none"> — 邦貨日計表と外貨日計表 <ol style="list-style-type: none"> 2. 計理仕訳ミニ演習 <ul style="list-style-type: none"> ・国内株 ・国内債券 | <ul style="list-style-type: none"> ・追加約定/解約約定(株式投信・公社債投信/単位型・追加型) ・追加処理前と処理後の日計表 ・解約処理前と処理後の日計表 ・追加信託処理明細表の解説 ・解約金処理明細表の解説 ・勘定科目に関する解説 |
|--|---|--|

Session 3 決算関連業務/外国投信を組み入れたファンド・オブ・ファンズの留意点

15:00 ~ 16:30 (90分)

- | | | |
|--|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 決算関連業務 <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な分配金決定の流れ ・追加処理後の分配原資 <ul style="list-style-type: none"> — 基準価額が元本を上回っている場合/下回っている場合 ・解約処理後の分配原資 ・分配金原資の計算方法(原資の内訳) ・分配原資の一般的な引き落とし順序 ・運用報告書での開示強化 ・収益分配金計算書の解説 <ul style="list-style-type: none"> — 分配可能額算出の仕組みを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・外国所得税控除があった場合の分配金支払い <ul style="list-style-type: none"> — 税制改正が影響 ・分配のトレンド <ol style="list-style-type: none"> 2. 外国投信を組み入れたファンド・オブ・ファンズの留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・概観図による解説 ・ファンド・オブ・ファンズの形態と特徴 ・公募ファンド・オブ・ファンズのルール ・外国投信を組み入れる際の主な要件 ・組入れる外国投信のしくみ(ユニットトラスト/コーポレートファンド) | <ul style="list-style-type: none"> ・外国投信の評価 ・外国投信からの分配金受取の問題点 ・ファンド・オブ・ファンズ設定のメリット <ul style="list-style-type: none"> — 要件の裏返し、資金繰り、etc. ・スナッププライスとフェアバリュー ・スウィングプライシング(Swing Pricing) <ul style="list-style-type: none"> — 信託財産保留金のような効果 ・国籍による違いのイメージ |
|--|--|---|

Session 4 投信業界の今後の課題

16:30 ~ 17:00 (30分)

- | | | |
|---|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融庁指導と市場動向 2. 基準価額の一元化 <ul style="list-style-type: none"> ・基準価額の一元化とは ・二元制度の背景及び根拠条文 ・二重計算問題認識 <ul style="list-style-type: none"> — DUAL NAVとSINGLE NAV ・法令改正も視野に入れた長期展望 | <ol style="list-style-type: none"> 3. マテリアリティポリシー 4. 資産形成等に係る課題 <ul style="list-style-type: none"> ・SMA/ラップ口座へのファンド提供 ・新NISA、DCにおけるデフォルトファンドの設定 5. パーゼル3 | <ol style="list-style-type: none"> 6. アジア地域ファンドパスポート(ARFP) 7. 投信業界最新動向 |
|---|--|--|

債券ポートフォリオマネジメント業務 — 債券運用の理論と実務 —

6/15月

債券運用全般

為替ヘッジ

ESG債券投資

講師 全セッション: 横谷 宏史 ピクテ・ジャパン 執行役員 商品本部長
山下 文音 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ 債券ポートフォリオ・マネージャー

資産運用会社の債券アクティブおよびパッシブ運用において、債券ポートフォリオ・マネージャーの実務を解説します。市場分析、戦略立案、実行、債券売買までの業務を網羅し、基礎知識や経済指標の見方、運用戦略の立案方法を学びます。また、金利の歴史を振り返り、2000年代の低金利、最近の金利上昇における債券運用の課題やトレンドを紹介し、債券ポートフォリオマネジメントの実際を広く理解することを目的とします。

Session 1 実務に必要な基礎知識

10:00 ~ 11:30 (90分)

- | | | |
|---|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 債券 <ul style="list-style-type: none"> ・債券の経済効果とペイオフ ・債券属性の見方 2. 債券価格 <ul style="list-style-type: none"> ・債券価格と金利の関係 ・デュレーションとコンベクシティ ・経過利息 ・オファービッド | <ol style="list-style-type: none"> 3. イールドカーブ <ul style="list-style-type: none"> ・イールドカーブの決定要因と変動要因 4. スプレッド <ul style="list-style-type: none"> ・国債以外の債券種別(政府関連債、社債、資産担保債等) ・スプレッドの決定要因 ・CDS | <ol style="list-style-type: none"> 5. 債券のリスク <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな市場リスク ・証券固有のリスク |
|---|--|---|

Session 2 経済指標およびマーケットの見方

11:30 ~ 13:00 (90分)

- | | | |
|--|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 債券価格の変動要因 2. 主要国の金融政策の見方 3. 経済指標サイクルの見方 <ul style="list-style-type: none"> ・マーケットエコノミストの視点で見る経済指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・より重要なのはパーセプション・ギャップ <ol style="list-style-type: none"> 4. ケーススタディ(1) <ul style="list-style-type: none"> ・米国の経済指標サイクルを例に、重要指標のパーセプション・ギャップを予測する | <ol style="list-style-type: none"> 5. 債券運用の立場から必要な市場データ 6. 市場リスク環境の見方 |
|--|--|---|

Session 3 債券運用戦略の実行

14:00 ~ 15:10 (70分)

- | | | |
|---|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 債券運用の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・パッシブ運用とアクティブ運用 ・パッシブ運用の戦術 ・アクティブ運用の戦術 ・運用パフォーマンス評価の基本 ・リスク管理の基本 2. 債券の収益源泉 <ul style="list-style-type: none"> ・キャピタルゲインとインカムゲイン、方向性とボラティリティ | <ol style="list-style-type: none"> 3. 超過収益獲得のための戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・デュレーション戦略 ・国別配分戦略 ・イールドカーブ戦略 4. イールドカーブの変動要因 <ul style="list-style-type: none"> ・イールドカーブの変動要因 ・主成分分析 ・イールドカーブの形状変化 5. ケーススタディ(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・イールドカーブの変化をとらえる <ol style="list-style-type: none"> 6. イールドカーブ戦略とケーススタディ(3) <ul style="list-style-type: none"> ・ダンベルプレット戦略を例に 7. 債券取引の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・各国国債の特徴 ・権利落ち ・インデックスのデュレーション・エクステンション ・債券取引の実際 |
|---|--|---|

Session 4 パラダイムシフトの起る債券運用のトレンド

15:10 ~ 17:00 (110分)

- | | | |
|---|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 金利の歴史を振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・世界の金利の歴史 ・2000年代の日本、米国 ・1940年代の米国の経験 ・マイナス金利とキャッシュ運用、マイナス金利下の債券投資 2. グローバル債券運用のトレンド <ul style="list-style-type: none"> ・2000年代以降の債券運用におけるさまざまな取り組み ・グローバル債券運用のトレンド:「総合化」 ・グローバル債券運用のトレンド:「純化」 | <ul style="list-style-type: none"> ・「純化」と脱・時価ウェイトインデックス ・高利回り債券の効用 ・スプレッド物債券の特徴 ・新興国債券 ・格付けによるアノマリー ・ETFにおける債券運用の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 3. 為替ヘッジをめぐる議論 <ul style="list-style-type: none"> ・為替レートの決定理論 ・為替ヘッジに関する論点整理 ・国内債券とヘッジ外債の関係 ・TBAダラーロール戦略 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドル円ヘッジコストと為替ベース <ol style="list-style-type: none"> 4. ESG債券投資の潮流 <ul style="list-style-type: none"> ・株式投資との違い ・社会的リターンか、経済的リターンか ・ESG債券投資の類型 ・信用格付けとESG評価 ・グリーンボンドの課題 ・サステナビリティ・リンク・ボンド ・パリ協定と気候変動投資 ・カーボンフットプリント ・債券におけるESG投資の今後の展開 |
|---|---|--|



投資の本質と資産運用の原理

— 投資の思想と構造から再考するアセットマネジメント —

新規講座 特別企画

6/18

講師 全セッション：森本 紀行 HCアセットマネジメント株式会社 代表取締役社長

「投資とは何か」という根源的な問いに立ち返り、資産の存在意義、市場構造、投資家の価値観や倫理を多面的に考察します。理論の表層にとどまらず、アセットクラスの本源的意義、市場の非効率性、価値観に基づく資産配分、プライベート投資、ポートフォリオ管理、金融機関の責任までを体系的に整理。実務に活かせる洞察を得たい受講者に向けた講座です。

Session 1 投資の原理とアセットの根源的意義

10:00 ~ 11:00 (60分)

「投資とは何か」を、各アセットクラスが存在理由から考察する。

1. 投資の原理 — リスクと時間価値

- 投資は「将来キャッシュフローの時間的交換」である
- リスクとリターンの関係：不確実性を引き受けることで得られる収益
- リターンの構成要素：期待成長、リスクプレミアム、インフレ補償

- 株式投資：企業価値創造と資本主義の成長メカニズム
- 債券投資：信用供与の制度的仕組みと利回り構造
- 実物資産：インフレヘッジ・購買力維持の機能

- プライベート投資：情報非対称性と市場非効率性を活かす機会

- ヘッジファンド：市場の歪み・非線形性の収益化

3. 具体例

- 年金基金の長期債券投資が果たす「安定装置」としての役割
- 株式市場の調整局面でのリターンの意味づけ
- 実物資産の名目リターンと実質購買力の乖離（実例分析）

Session 2 資産選択と配分の理論 — 投資家の価値観と構造設計

11:00 ~ 12:00 (60分)

投資家の価値観に基づく資産選択と配分の理論的背景を理解する。

1. 資産選択の哲学：社会的意義と価値創造

- 本源的収益と本源的価値の理解
- 投資対象の分類と選択の順序性

- キャッシュフローの源泉による選別

2. 配分の構造設計：意味のある構成

- 分類・選択・配分の三段階構造

- 資産分類の軸と流動性の再定義
- 「オルタナティブ」の再構成と位置づけ

3. 投資家の文化的背景とポートフォリオの関係

Session 3 市場の効率性とアクティブ運用の復興

13:00 ~ 14:00 (60分)

市場構造の理解とアクティブ運用の意義を再考する。

1. 効率的市場仮説の限界と歪みの存在

- 市場機能を支える要件：流動性と情報の対称性
- 裁定時間と非効率性の投資機会
- 市場の高度化と機関投資家の同質化による歪み

2. アクティブ運用の復権：知性と洞察による価値創造

- 本源的価値の算定と主観的判断の重要性
- バリュウの認識と解消までの時間軸の見極め
- 「売り規律」としてのアクティブ運用の厳格性

3. 投資とは、主観的価値の認識と市場の歪みへの洞察

- 市場価格と価値の乖離に対する投資家の姿勢
- 多様な時間軸と評価基準が生む市場の厚み
- アクティブ運用者の存在が市場効率性を支える構造

Session 4 プライベート投資の魅力と非効率性の活用

14:00 ~ 15:00 (60分)

情報非対称性を活かしたプライベート投資の本質を探る。

1. 非公開市場の構造と投資機会

- パブリック市場とプライベート市場の構造的違い
- 「売前提」から「売らない前提」への転換
- 実物資産・インフラ・プライベートデットなど多様な投資対象

2. 情報の非対称性と投資家の知性

- 情報の非対称性を前提とした投資判断
- 投資家の関与によるリスク管理と価値創出
- 「イカ金融」的アプローチによる動態評価の重要性

3. 社会的課題解決とプライベート投資の接点

- 地方インフラ・エネルギー分野への資金供給
- キャッシュフロー創出の契約構造とリスク分散
- 投資による社会的価値と持続可能性の追求

Session 5 ポートフォリオ管理の理論と実践

15:00 ~ 16:00 (60分)

投資家の目的に応じたポートフォリオ設計と運用の実践的理解。

1. 投資の本質的価値とポートフォリオ管理の原理

- 投資の本質：事業キャッシュフローの厳選と持続性評価
- 事業価値と投資価値の関係 — 「本源的価値」と市場価格の峻別

- リスクとボラティリティの区別 — 平均分散理論の限界

2. リスク管理と構造的設計

- リスクとボラティリティの区別 — 平均分散理論の限界

- リスクアパタイトフレームワークの最高適度
- 意図的なリスクテイクと厳格な売却規律

3. 実例分析：年金・公益法人・個人投資家のポートフォリオ構成

Session 6 金融機関の役割とフィデューシャリーデューティ

16:00 ~ 17:00 (60分)

顧客本位の業務運営と職員の倫理的責任を再考する。

1. フィデューシャリーデューティの本質と制度的背景

- 「顧客の利益を最優先する」という原則の思想的起源
- 制度としてのフィデューシャリー概念とその限界

- 「client benefit first, money follow」の考え方と実務への応用

2. 金融機関の役割と職員の職務上の義務という誤解

- 職業倫理と「企業の席を借りるだけ」という自覚

3. 顧客本位の業務運営と資産運用の実践

- プロフェッショナルとしての誇りと責任
- 「最善努力義務」の再考と実務への落とし込み
- 顧客の主観的判断に依存しない最善利益の提案と説明責任

投資顧問考察

— 活用戦略と将来ビジョン —

夏季限定企画 特別企画

6/19

講師 全セッション：和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント

投資顧問の仕組みを活用したビジネスは多様化しています。本講義では、投資顧問がどのようにさまざまな分野で役立っているかを紹介し、その大きなポテンシャルを実感していただきます。「投資顧問ビジネスのさらなる発展を望む」すべての方におすすめの特別プログラムです。

Session 1 投資助言・投資一任の伝統的ビジネス

10:00 ~ 11:30 (90分)

まずは伝統的なビジネスのスタディから。投資助言ひとつとってみても、いろいろなビジネス類型があることは意外に知られていません。

1. 投資助言

— 投資顧問のはじまりは助言。これを活用するだけでも様々なビジネスに展開可能。

- レポート助言
- 個別銘柄助言
- モデルポート助言
- 投信銘柄助言
- 運用会社助言

2. 投資一任

— 投資顧問の典型的な運用形態。ポピュラーな年金等において広く活用されています。

- 投信組入運用
- 個別銘柄運用
- バランス運用
- 特化型運用
- オルタナティブ運用

Session 2 投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用

11:30 ~ 13:00 (90分)

投資信託の分野においても、投資顧問とは密接に関係しています。外形的には投資信託でも、実は投資顧問として運用しているビジネスストラクチャーは多様に存在します。

1. 国内投資信託における外部委託

— 実は外部委託運用は投資顧問として運用されている。

2. 国内投資法人

— 日本版会社型投資信託。この運用も投資顧問。

- 不動産ファンド
- インフラファンド
- ベンチャー支援投資法人

3. 外国投資信託

— 多くは会社型投資信託。これらはさらに多様なビジネスに拡大中。

- 会社型投信
- 上場投信 (ETF等)
- ヘッジファンド
- マネージャー・オブ・マネージャーズ
- 持ち込み外国投信

Session 3 投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティにおける投資顧問の展開

14:00 ~ 15:30 (90分)

投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティといった分野も投資顧問の世界。これらも投資運用業、助言業として運用を行っているビジネスです。様々なタイプの器によって投資顧問の仕組みが活用されています。

1. 国内投資事業組合

— 少し毛色の異なる投資顧問ビジネスの世界をご紹介します。

2. LPS (リミテッド・パートナーシップ)

— 海外投資事業組合。この仕組みによって、さらに足場が広がっていく。

3. プライベート・エクイティ

— ここでも様々な形態が。

- ベンチャー・キャピタル
- バイアウトファンド
- 再生ファンド
- ディストレスファンド

Session 4 ラップ・SMAでの投資顧問の展開

15:30 ~ 17:00 (90分)

運用主体はアセットマネジメントではなく主に証券会社ですが、証券会社が投資顧問会社を兼営することによって投資顧問ビジネスを展開。証券の世界においても投資顧問は拡大中です。

1. ラップ

— 証券会社の投資顧問ビジネスとは？

- 投資助言投資信託ラップ
- 投資一任投資信託ラップ
- 投資一任個別銘柄ラップ

2. SMA

— 富裕層を対象にした展開。

- ラップとSMAの違い
- 富裕層へのプライベートバンキング
- 投資顧問ビジネスの注目ポイント

<中級上級編>

投資信託約款の読み込み方

— 「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ —

講義時間拡大

6/24 水

講師 全セッション：宮園 喜明 元 三井住友信託銀行 受託業務推進部 投信受託課 主任調査役

投資信託約款は、運用会社と信託銀行がファンドの運用や運営の方針を規定する信託契約ですが、法令や業界知識が必要な難解な文書です。本講義では、基本を押さえつつ、よくある質問に対して回答するように約款を分かりやすく解説します。法務部門や管理部門の方だけでなく営業部門や運用部門の方にも役立つ内容で、投資信託を総合的に理解するための貴重なプログラムです。

Session 1 約款を読み込むための基本知識

9:45 ~ 11:30 (105分)

- | | | |
|-----------------------|-----------------|------------------------|
| 1. 「投資信託約款」とは何か | 5. 「証券投資信託」について | 【参考】「私募投資信託について」 |
| 2. 「投資信託」の「信託」とは何か | 6. 「有価証券」について | 【参考】「一人私募について」 |
| 3. 投資信託の全体像 | 【参考】「法体系について」、 | 【参考】「金融機関の経営指標と投資信託運用」 |
| 4. 「株式投資信託」と「公社債投資信託」 | 「条文の構成について」 | |

Session 2 約款本文からポイントを学ぶ その1

11:30 ~ 13:10 (100分)

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 運用の基本方針 | 7. 当初の受益者、受益権の分割及び再分割
— 受益権の再分割は社振法による | 12. 受益権の譲渡に係る記載又は記録
— 振替口座簿に係る振替機関等とは |
| 2. 信託の種類、委託者及び受託者
— 委託者指図型投資信託契約の締結 | 8. 追加信託の価額及び口数、基準価額の計算方法
— 純資産総額の計算 | 13. 受益権の譲渡の対抗要件
— 委託者及び受託者への対抗要件 |
| 3. 信託事務の委託
— 原受託者から再信託受託者へ
信託事務の再委託 | 【参考】基準価額の『受託者一社計算』について | 14. 投資の対象とする資産の種類
— 特定資産および特定資産以外の資産 |
| 4. 信託の目的及び金額、信託金の限度額
— 個別元本方式への変更の影響 | 9. 信託日時の異なる受益権の内容
— 分配金はなぜ基準口数当たり同額か | 15. 運用の指図範囲等
— 第1項有価証券、第2項有価証券の
具体例 |
| 5. 信託期間
— 「信託契約解約の日」及び
「信託終了の日」 | 10. 受益権の帰属と受益証券の不発行
— 社振法の適用と振替受益権 | |
| 6. 受益権の取得申込みの勧誘の種類
— 金商法の規定と投信法の規定 | 11. 受益権の申込単位及び価額
— 金融商品取引業者と登録金融機関 | |

Session 3 約款本文からポイントを学ぶ その2

14:10 ~ 15:50 (100分)

- | | | |
|--------------------------------|---|--|
| 1. 利害関係人等との取引等
— 利益相反行為について | 6. 投資信託財産の登記等及び記載等の留保等
— 信託の登記、及び具体例 | 10. 投資信託財産に関する報告等
— 金商法の規定と投信法の除外規定 |
| 2. デリバティブ取引等にかかる投資制限 | 7. 資金の借入れ — 三者協定書、四者間覚書 | 【参考】「公募投信における発行開示義務と継続開示義務」 |
| 3. 信用リスク集中回避のための投資制限 | 8. 受託者による資金の立替え
— 受託者が行う未収入金の立替え | 11. 信託事務の諸費用
— 公募投信におけるファンド監査 |
| 4. 信託業務の委託等 | 9. 信託の計算期間
— 内閣府令における例外規定 | 【参考】「公社債投資信託について」 |
| 5. 混蔵寄託
— 混蔵寄託の内容とその代表例 | | |

Session 4 約款本文からポイントを学ぶ その3

15:50 ~ 17:30 (100分)

- | | | |
|--|---|--------------------------------------|
| 1. 信託報酬の総額及び支弁の方法
— 未払費用の信託報酬額は消費税
相当額込み | 5. 信託契約の一部解約
— 信託財産留保額とその導入の経緯 | 10. 反対受益者の受益権買取請求の不適用 |
| 2. 収益の分配方式
— 追加型、単位型での違いと、
追加型公社債投資信託 | 6. 質権口記載又は記録の受益権の取扱い
— 第三者に対抗する為の質権口記載 | 11. 運用報告書に記載すべき事項の提供 |
| 3. 収益分配金、償還金及び一部解約金の
支払い — 投信協会規則との整合性 | 7. 投資信託契約の解約
— 「できます」規定と「させます」規定 | 12. 公告
— 約款では官報への掲載を公告の手段と
しない |
| 4. 収益分配金及び償還金の時効
— 収益分配金5年、償還金10年の根拠 | 8. 受託者の辞任及び解任に伴う取扱い
— 旧法信託約款の規定との違い | |
| | 9. 投資信託約款の変更等
— 重大か非重大かを判別するフロー | |

生成AI時代のAI運用

— 資産運用におけるAI活用と実務展開

リニューアル

6/29 月

講師 Session 1 & 2: 長尾 慎太郎 楽天投信投資顧問 第三運用部
Session 3 & 4: 中田 喜之 ニッセイアセットマネジメント株式会社 ファイナンシャルテクノロジー運用部 チーフ・ファイナンシャル・エンジニア

資産運用分野におけるAI活用を、思想・技術・実務の観点から体系的に解説します。データサイエンスや機械学習によるクオンツ運用の発展を踏まえ、生成AIが調査・分析業務や意思決定支援に与える影響を整理します。AIは人間の判断を代替しないことを前提に、その特性と限界を理解した上で、運用戦略設計の考え方、生成AIの仕組み(LLM、RAG、エージェント型AI)と実務導入の進め方、体制面の課題を解説します。

Session 1 資産運用におけるAI

10:00 ~ 11:20 (80分)

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 資産運用の現場で生成AIはどこまで
使えるか?
・資産運用におけるAIとデータサイエンスに
ついて
・生成AIはポートフォリオを組めるか?
・生成AIはディスクリメントを書けるか?
・AIが解決する社会的課題 | ・二種類のAI
・AIの欠点
・AIは直観像を持つ人間と同じ | ・サイエンス(科学)とは何か?
・サイエンスに基づいた資産運用
・信念としての運用哲学の文化と系譜
・金融市場と予測
・複雑系としての金融市場を資産運用の実務
者はどう扱ってきたか?
・株式市場のファクターモデル、
ファクターモデルの拡張の限界 |
| 2. AI(人工知能)とは何か?
・AI(人工知能)の定義 | 3. 資産運用とサイエンス
・投資におけるサイエンスの始まり
(Security Analysis)
・Security Analysisに必要な技術、
価値評価(DCF法)
・科学パラダイムの時系列変遷 | |

Session 2 データサイエンスのデザイン戦略

11:20 ~ 13:00 (100分)

- | | | |
|---|--|---|
| 1. 運用システムの開発と構造 — 人間が行う
限りなくシステムチックな運用とは何か?
・投資戦略の開発
・アルゴリズム運用戦略の基本的構造
・アルファモジュール(Hints) | ・リプリケーション(クローン)戦略
・プロセス解析アプローチに適した戦略
・リプリケーション戦略の評価と検証・改善
・文献調査とインタビュー調査
・プロトタイプモデルの構築
・実証運用と評価・検証
(仮説演繹・検証の繰り返し)
・最終型モデル、最終型とオリジナルとの比較
・モデルの汎用性と今後の課題 | ・機械によるデータドリブンな資産運用
(1980年代~)
・機械的探索と機能的な科学の威力 |
| 2. 投資戦略と知識
— 人間は知識をどのように創造するのか?
・暗黙知と形式知
(知識創造・知識獲得の構造)
・投資戦略立案における方法論
(演繹と帰納)
・投資戦略立案における科学哲学
(演繹と帰納) | 4. 資産運用における機械(AI)の長所は何か?
— 資産運用においてAIは如何に成功したか
・金融市場に対する人間の判断はおおむね
まちがっている
・運用組織における人間の欠陥
・機械(AI)は人間の各機能の上位互換では
ない | 5. 科学パラダイムと社会
・日本ではデータに基づく科学は受け入れ
られにくい
・日本ではAI運用は法的な問題を伴う
・インサイダー取引規制におけるバスケット
条項
・資産運用業におけるイノベーションの
ジレンマ
・技術的な課題の前に多くの困難がある |
| 3. 仮説演繹と帰納法による戦略構築の例
・運用の専門知識獲得の問題に対する
ソリューション | | 6. CLOSING REMARKS
・まとめ
・資産運用ビジネスにおける人工知能と
データサイエンスの可能性 |

Session 3 資産運用におけるAI活用と基礎技術

14:00 ~ 15:40 (100分)

- | | | |
|---|---|---|
| 1. 資産運用業務におけるAI活用の概要
・資産運用業務とAI
(クオンツ運用、調査業務、業務効率化)
・AI活用の現状と可能性
・資産運用分野特有の課題 | ・予測・分類モデル
(回帰と分類の違い、手法、活用例)
・時系列分析
(金融データの特徴、手法、活用例)
・自然言語処理(分析手法、活用例)
・各技術の使い分け | ・生成AIとは何か
(従来のAIとの違い、実例)
・大規模言語モデル(LLM)の仕組み
・プロンプトエンジニアリング
・Retrieval-Augmented Generation
(RAG)
・エージェント型AI |
| 2. AI技術の基礎知識
・AIとは何か(要素技術の全体像とマップ) | 3. 生成AIの基礎と技術的背景 | |

Session 4 資産運用業務におけるAIの実務応用

15:40 ~ 17:00 (80分)

- | | | |
|---|---------------------------------------|---|
| 1. 実務応用の進め方
・実践に向けた全体像
・体制・システム環境 | ・モデル開発とバックテスト
・運用開始 | ・業務効率化 |
| 2. クオンツ運用への応用
・データ収集と前処理 | 3. 生成AIの実務応用
・情報収集・分析業務
・投資判断支援 | 4. AI活用の将来
・人とAIの協働
・克服すべき課題と今後の方向性 |

オンライン受講(ライブ配信)申し込み手順

お申し込みは日経ビジネススクールの
Webサイトから

🔍 検索



<https://school.nikkei.co.jp/special/fundmanage/>

- ▶ お申込み受付後、事務局から確認のメールをお送りします。
- ▶ お申し込み・ご入金について
 - 各講座指定の方法での入金をお願いいたします。
 - クレジットカード決済は、領収書の発行はできません。代わりにクレジットカード会社が発行する請求明細または申込完了メールおよびマイページの「決済履歴」からダウンロードできる「利用料お支払い明細書」をご利用ください。「利用料お支払い明細書」には、インボイス番号およびお支払金額が記載されています。これらの書面が、勤務先などで精算にご使用いただけるかは、お客様自身でご確認ください。
 - 法人宛の請求書でのお支払いをご希望の場合は、『講座の法人窓口』をご利用ください。
講座の法人窓口：<https://school.nikkei.co.jp/hr/>

お申し込みから受講までの流れ

1. お申し込み後、講義開催の1営業日前に受講者用配布資料のダウンロード先を事務局からメールでご案内します。
※講義によっては、配布資料がない場合、また事前には配布せず事後にダウンロードいただく場合もあります。
2. 講義実施直前(あるいは当日)に、事務局からメールでZoomへのアクセス方法をお送りします。それに沿い、遅くとも講座開始の5分前には接続を開始し、通信状況を確認してください。通信状況を確認されましたら、必ずマイクをミュートにして講義開始までお待ちください。事前配布の資料は、講義開始までにダウンロードをお願いします。
※1と2は同時にメールでご案内する場合があります。
3. ライブ配信講義での講師への質問方法、および講師からの質問に対する反応(挙手など)については、Zoom機能の簡単な使い方とともに、講義開始前にZoom画面でご案内します。また、グループに分かれて意見交換などワークを行う場合があります。その際、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使い、少人数のグループに分かれていただき、各グループごとにワークを進めていただきます。なお、講義中に発言される場合は、ご自身でZoomのミュートを解除してお話してください。
4. 講義終了後、事務局からメールにて、アンケートへのご協力をお願いについてご案内します。
※ライブ配信の場合、通信状況やその他の理由により音声途切れる、画像や音声乱れる、つながらない、途中で回線が切れてしまうなどのトラブルが発生する可能性があります。あらかじめご承知おきください。
※配信側の通信状況や不具合で接続が安定しない、回線が落ちてしまうなどの場合は、緊急でZoomの接続先を変更することがありますので、講義中は事務局からのメールを受信できるようにしておいてください。

注意事項・その他

<禁止事項>

「日経ビジネススクール利用規約(個人)」記載の内容に加えて次の行為を禁止します。

- 本講座の録音・録画
- 資料の無断複製、第三者への提供
- 本講座のアクセス情報(IDとPW)の第三者との共有、使い回し

<その他注意事項>

- 講座のお振り替えはお受けいたしかねます。
- 講義の内容や資料等の著作権については「著作権について」をご確認ください。

日経ビジネススクール利用規約(個人)：

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html>

著作権について：

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/copyright.html>

解約について

やむを得ず解約される場合は、受講開始日の3営業日前の15:00までに、運営事務局までご連絡ください。解約される場合は、返金手数料2,200円(税込み)をお支払いいただきます。お支払い済みの受講料から返金手数料を控除した金額をご指定の銀行口座に振り込む方法で返金いたします。それ以降の解約はお受けいたしかねます。

- 運営事務局の営業日は、土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日となります。

お問い合わせは、こちらまで

Tel: 03-6812-8679

Email: nikkei-bs@nex.nikkei.co.jp

日経ビジネススクール運営事務局
株式会社日経イベント・プロ内

受付時間：営業日の9:30~17:30

<営業日> 土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日

⚠️ 講座開催における個人情報の取り扱いについて

本講座の受講には「日経ビジネススクール利用規約(個人)」が適用されます。ご登録いただいた個人情報は日本経済新聞社および日経メディアマーケティングがそれぞれ直接取得し、それぞれのプライバシーポリシーに従って取り扱います。

- 日本経済新聞社：「日経IDプライバシーポリシー」及び「日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて」
- 日経メディアマーケティング：「個人情報保護について」
- 日経ビジネススクール利用規約(個人)：<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html> ● 日経IDプライバシーポリシー：<https://www.nikkei.com/lounge/privacy/privacy.html> ● 日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて：<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/privacy.html> ● 日経メディアマーケティング：個人情報保護について：<https://www.nikkeimm.co.jp/privacy/>